

国立国語研究所学術情報リポジトリ

鹿児島県川辺郡笠沙町片浦方言

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2020-10-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 上村, 孝二 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00003023

方言録音資料シリーズ－3

鹿児島県川辺郡笠沙町片浦方言

上　村　孝　二　編

1 9 6 8

このテキストは、総合研究「地方における話しことば教育法改善のための基礎的研究」(代表者 大石初太郎) の一部として、研究用の資料として作られたものである。

方言の録音方法、方言の表記の方法などのあらましについては、別に作った「方言の録音とテキストの作成について」（国立国語研究所 話しことば研究室編）を参照されたい。

ここに収めた方言の録音とテキストの作成とは、鹿児島大学教授 上村孝二 が担当した。

もくじ

収録地点とその方言について 2

表記について 4

本文

1. 火事の思い出 5

2. 運動会に参加をすすめる 13

3. 結婚式の今昔 22

4. 蓬だんご 36

5. 八百屋さんと一婦人との対話 42

6. 祝儀：孫の誕生をよろこぶ 58

7. 地名伝説 66

8. 綱主の奥さんと漁夫 73

注 83

収録地点とその方言について

1. 収録地点名：鹿児島県川辺郡笠沙町片浦

2. 収録地点の概観

野間半島部の良港の漁村である。戸数280戸で大部分の住居は山の傾斜面に密集する。耕地水田乏しいために農産物に見るべきものはない。部落の生活は漁業(近海)に依存しているが、近時漁獲が少なく、さびれた感じ。交通は南薩鉄道の加世田駅と野間池との間に戦前からバスの便があり、最近は鹿児島市直行のバスも運行されている。買物は加世田市にも行くが、商店の仕入れなどは鹿児島市へ出かける。枕崎方面へも鉄道を利用して買物にでかける。漁船は枕崎方面とも往来する。小中学はこの部落ではなく手前の小浦にある。役場もそう。

3. 収録した方言の特色

野間半島(大津町・笠沙町から成る)方言は薩隅一般から見ると、やや変わっている。むしろ私の所謂半島南端方言(枕崎・頬姫・開聞・喜入など)に属する。今回の臨地調査(話手の言葉を主にした)によって鹿児島地方には聞かれない特徴をあげて見る。

音韻……①語中・語尾のk・tの有声化は微弱ながら残っている。老年にあるが、個人差もある。②鹿児島地方では短い母音が原則的だが、この方言では長音化の例がかなりある。多くは強調形と思ってよいようだ。③アクセントは重起伏調なのが戦前の私の調査でわかつっていたが、割に鹿児島式化しているようだ。若い婦人(話手)には枕崎式ア(高低が鹿児島と逆上に重起伏式)がかなりきかれたが、この人の発音について疑いをいだく一座の連中はいなかつたから、枕崎式アと鹿児島式アに基づく重起伏調とともに混在していたのか。なお要研究。④ガ行鼻音は予期に反してきかれなかった。

付：四つ假名の区別は鹿児島中心部では行なわれないが、片浦方言では老人の坂上氏(男)だけはよく区別していた。

文法……①セッカラ(為べきだ)、イケッカラ(行くべきだ)のような南端方言的なもの。②終助詞(質問)にカナとかカオがある。③「ねえ」を「ニー」というのが、児童にきかれた。(南端方言的)

語彙……バカ(麦粒腫)、イッソ(常に)、ボッナ(かぼちゃ)、アラクッ(片づける)、スマン(いけない)、マメクジ(蝸牛)、子ヲモツ(出産する)、メテワケ(漁獲の配分)カチ(魚群) マズミ(日没寸前) アサイ(浅瀬)以上4つは漁村語彙。

4. 地点選定の理由

自由会話の中に薩摩半島南端方言的なものがどれほどあらわれるか、又どれくらい鹿児島語化しているか、などを知りたいと思った。

表記について

(指定の字母以外に使用した字母、および使用した補助記号)

特になし

1. 念を押す意の終助詞 na, nai は前文と離して表記した。

理由：次のような語末の na と区別するためである。

ikaNna (行かなければ)

ikutokana (行くのかね) , kana は一語

ikuna (行くのですか)

2. 念を押す意の o, o: も 1 の na, na: に準じて表記した。但し、gao のように ga などと密着したものは離さない。
3. 断定の意の z ja, z jaNs u, z jaNs a, 又 goaNs u, gozaNs u なども自立語的なので前文と切り離して表記した。
4. 薩隅方言の goaNs u の類は標準語のゴザイマスより丁寧度が低いので「です、あります」などと訳した。これを「ございます」と訳したのは「ありがとうございます」の例だけ。

1. 火事の思い出

録音日時 1966年11月19日

録音場所 笠沙町片浦
金宮荘(旅館)

話し手

(略号)	(氏名)	(性別)	(生年)	(職業)	(居住歴)
H	林 達郎	男	大正6年生	商業	0~13才在郷 14~18鹿児島市(旧制中学) 19~21在郷 21~29熊本市(兵役) 30~現在 在郷
Y	山中房子	女	△12年生	農業	0~16才在郷 17~21神戸市 22~現在 在郷

解説: 戦前この部落でおこった大火のことを回想し、その恐怖について語る。

H anna ga q cui ataja oma nsa e i q kai ko : kikokai-
あのね ほんとに 私は あなたに 一回 こう きこうかい
ci omo oi ko q ga aq t a tado : N a N : koko N butoka
と 思って いる ことが あるのだが、あの ここに 大きな
k w a h i g a aq t a i na :
火事が あった わ。

Y ha i
はい。

H aja do q kara ikena hui s i te deta ja q t a t o k a o
あれは どこから どんな 風に して 出たの でしたか。

Y ah i k o N hara o t e r a N s o b a N o
あそこ ほら お寺の そばの わ,

H ha : ha : ha :
はあ、 はあ、 はあ。

Y ah i k o n i a n o : o i n e b a s a N n o o j a s i t a d o g a hara na :
あそこに あの お稻婆さんが おられたろうが ほら わ。

H a ora q t a g a ora q t a g a
あ おられたよ, おられたよ。

Y hai ahikon iekara detatandon o:
はい あそこの 家から 出たんですが ね。

H hun
うん。

Y de ano kinpenwa hara moemositatandon o: ima
で あの 近辺は ほら 燃えましたんですけど ね。今
saisjo na:
最初 ね。

H hai hai
はい、はい。

Y sono kan¹⁾ higa hora hidamani naqte an hara
その 間 火が ほら、 火玉に なって あの ほら
ahikose: tonmositade sakame²⁾ sakase:
あそこへ 飛びましたので 坂面(の) 坂の方へ。

H so:na
そうかい。

Y hai
はい。

H ataja na: cjo:do son toka omaja:³⁾ heitaide:
私は ね、 ちょうど その 時は あなた, 兵隊で
tokujon na ano gakko i oqtajo⁴⁾ wage: kara oma-
東京の ね あの 学校に いたのよ。 自宅から あな
ja kataura kwazida zenjijo:su sinruimo mina
た, 「片浦 火事だ 全焼す 親類も みな
jaketa c jute denpoga kita mon jaqde na:
やけた」 といって 電報が 来た もの だから ね。

Y hai
はい

H higtamagaqte omaja ma: iqki: cjutai cjon
びっくりして あなた まあ すぐ 中隊長の
tokoi itate kjuk:ka:negaio siq morote na:
所に 行って 休暇願いを して もらって ね。

Y hai
はい。

H ma: sju: seNmae ma imakara kangurea sa sju:-
まあ 終戦前 まあ 今から 考えれば ね, 終
seNmae jaqtataqdonkaraN
戦前 だったんだけれども。

Y hai
はい。

H seNtomo atainaNDa zjo:kjo:wa sitaNNaqtataq-
そんなのも 私なんか, 状況は 知らなかつたん
5)
don na iqki kju:kao moreagete na:
だが ね。すぐ 休暇を いただいて ね,

Y hai
はい。

H sohite to:kjo:k(a)r)a modoq kitataqcio
そして 東京から 戻って 来たんだったよ。

Y e:
ええ。

H hosite modoq kitatoga koke citatoga cjo:do
そして 戻って 来たのが, ここへ 着いたのが ちょうど
ban jaqtamON jaqde saqpai zjo:kjo:wa waka-
晩 だった もの だから, さっぱり 状況は わか
raNtaqde sa:
らないのなもの ね。

Y hai
はい。

H hosite modoq mitaja omaja waigeN-sja kuraN
そして 戻って 見たら あなた, 自分の家の人々は 蔵の
nake boso:qci
中に ほんやりと,

Y hai
はい。

H o q k a h a n t o oma ja: o t o q c j a n n o oma ja: s u w a q c j o -
お母さんと あなた。 お父さんが あなた。 坐ってお
r a q t a q d e n a: h o i d e m o: b a n n o k o q j a r e j a w a -
られるんで ね。 それで もう 晩の こと だから わ
k a r a n t a q d e m o s o N m a m a e: i r o n n a k o c u m a k a -
からないので、 もう そのまま いろんな ことを まあ 語
t a q t e n e t a k o c j a n e t a t a q d o n n a:
って 寢た ことは 寝たんだが ね。

Y h a i
はい。

H a k u i h i j a oma ja o k i q t e m i t a t o k o i g a w a i g e N
翌日は あなた。 起きて 見た ところが、 自分の
i j a: n a h i o: a N h u t o k a w a i g e N e n o o m a j a j a -
家は 無し ね あの 大きい 自分の 家の あなた。 屋
s i q g a g z q c u i k o m a n k a m o k o m a n k a t a q d e s o r a n a:
敷が とても 小さいも 小さいのだから それは ね。⁸⁾

Y h a i
はい。

H N d a e n o a t o c j u w a k e N m o N z j a q d o k a: i c u t e
おや、 家の 跡と いえば こんな もの だろうかと 言って,
k o: s i t e m i r e j a o m a j a n a N z j a i k a t a u r a N e w a
こう して 見れば あなた。 何にも 片浦の 家は
n a k a t a q d e s o r a
無いんだもの それは。

Y h a i
はい。

H m a a g e N t a m a g a q t a k o c j a n a k a q t a a t a j a o m a i -
あんな 驚いた ことは なかった 私は。 あな
t a q m o t a m a g a i j a q t a r o d a i n a: h o N n o k o k o t e:
たたちも びっくり なさったろう ね, ほんとに。

Y a N h a r a r j o : h o : m a : h u t a t o k o i k a r a k o h i m o
あの ほら 両方 まあ ふたところから こう⁹⁾

h i g a n a :
火が ね,

H e : h u N
ええ、うん。

Y himoto ga jaqta g o t o n a q t a t o g o a n d e h a r a
火元が だった ように なったの ですから ほら。
10)

H N : h o (s) i t e k i : t e m i t a j a :
うん、そして 聞いて 見たら、

Y h i d a m a n n a q t e t o n d e i t a t e o :
火玉に なって 飛んで 行って ね。

H o :
おお。

Y s o k o N i e k a r a m a t a k o n d a s i t a s e : k o : m o e t e
そこの 家から また 今度は 下の方へ こう 燃えて
11)
k i m a s i t a d e s j o
来ましたでしょう

H e :
ええ。

Y d e r j o : h o : k a r a k o : m o e t a t o g o a n d e o
で 両方から こう 燃えたの ですから ね。

H z i a q t a t o j a n a :
そうだったんだ ね。

Y h a i
はい。

H h o i d e : n a : j u g o a q t a d e a k u i h i : k i : t e m i t a -
それで ね (両親が)言うようだったので 翌日 聞いて 見た
j a s o n o o i g e N u s i t o i h a r a a n o o t o m o o b a s a N
ら、そのう 私の家の 後ろが ほら あの お友小母さん
c u t e o q t e m a d a k a j a e g a a q t a a q d e h a r a
と言って、居て まだ 茅家が あった んだよ ほら、

Y h a i
はい。

H aN kora na:
あの頃ね。

Y hai
はい。

H soide na: gaqcui hinoma: ja nandēN oigenanka
それでね、ほんとに火の廻りは、たしか私の家などは
hajakagta jona hu: jaqttagao
早かったような様子だったよ。

Y ha:i
はい。

H hoide na: sodoqmo naimo toidasanzi: nandēN
それでね、諸道具も何にも取り出せないで、たしか
mo jaqtokaqto ko: nigejaqta jona hu: jaqta:
やっとのことこう逃げなさったような様子だった。

Y ha:i kazega hosite kicu go sitade hara na:
はい、風がそれでひどいでしたからほらね。

H zjaqtatoja na:
¹²⁾
そうだったのだね。

Y hai
はい。

H son kazega mata kon sitado:iga moeta toqto
その風がまたこの下通りが燃えた時と
iqdoki nanka konro noman takeN hose: kazega
同時に、何だか今度は野間岳の方へ風が
kawaqtataq cuwai na:
変わったんだというね。

Y hai
はい。

H hinonikuqna mon jaqcijo aiga mo: saisjokara
ひにくなものだよ。あれがもう最初から
son aqciN hose huicjoreja kora na:
あのうあっちの方へ吹いておればからね。

Y ha:i
はい。

H keN hutoka kwazimo naraNtaqtatadonkaraN
こんな 大きい 火事にも ならなかつたんだけれども。

Y zjasito na:
そうですの ね。

H honnokote hanNa tamagai jaqttaga minna ge:N
ほんとに あなた、 びっくり なさつたよ。 みんな どんなに
suqdokaici omoq donka maq kangeq mirea ka-
するだらうって 思つて。 けれど まあ 考えて 見れば 片
tauramo nai jaqtai na: aikara koqci o:
浦も 何 だつたよ ね。 あれから こっち ね。

Y hai
はい。

13)
H zugaaqtai site ma: imazja kora keN site
漁が あつたり して まあ 今では こら こんなにして
mo: iemo jaqpai taqte ma jokaqtaro na:
もう 家も やはり 建つて まあ よかつたよ ね。
14)

Y hai
はい。

H zugaaqtade na:
漁が あつたから ね。

Y zjasito na:
そうですの ね。

H ha:i..... jaqpai kwasicci nareja mo gaqcui mi-
はい。 やはり 火事と なれば もう ほんとに 身
nokega jodaqqa kora hinobunna daizi seNna
の毛が よだつよ ほら。 火だけは 大事に しなければ
sumantejo
いけないよ。

15)
Y hinno ano hiruN goq nasita hara na:
あのう 昼の ように なりました ほら ね。

H zjasitadodai na: mo atainanda sa· mo so:zomo
そうだったでしょう ね。もう 私なんか そう もう 想像も
cuka: N de omaitacja: ikena hude son nigeja-
つかない。 では あなた達は どんな 具合で 逃げなさ
qta monkao jaappai
った のか やはり。

Y atainanda to: goasitade hara na:
私なんかは 遠かったですから ね。

H ha:
はあ。

Y himotoga to: goasitasi ja ano jakemohantande¹⁶⁾
火元が 遠い でしたし, あのう 焼けませんのですから,

H hun
うん。

Y hoide nigekata nigemohantandonkaraN jaappai¹⁷⁾
それで, 逃げませんでしたけれど, やはり
nimocuba moqdahikata goasitai na:
荷物を 持ちだしかた でしたよ ね。

H jaqtarorai na:
そうだったろう ね。

Y usiton towaka tokoise: himo kimohan tokoi-
後ろの 遠い ところへ, 火も 来ません ところ
se: na:
へ ね。

H jaqtaga sora mo
そうだったよ それは。

Y

H a: asa Nanzigoro cinkwa sitatokana
ああ, 朝 何時頃 鎮火 したのかね。

Y asaN Nanzigoro goasitadoka.i mada hiru jake
朝の 何時頃 でしたらうか, まだ 昼 焼けて

o s i t a i n a : a q p a i m o e g o s i t a i n a :
いました ね。 やっぱり 燃えていましたよ ね。

H e :

ええ。

Y ja q p a i h i r u - g o r o z j a n a : s o N k a : i¹⁸⁾
やはり 昼ごろ だ ね。 その かわり,

H a : s o : n a
ああ、 そうかい。

Y ja q p a i s i o q t o k o i (g a) g o a s i t a d o N¹⁹⁾
やはり して いる ところが ありましたけど。

H s o : n a
そうかい。

Y h a i
はい。

Y e :
ええ。

2. 運動会に参加をすすめる

録音日時 1966年11月19日

録音場所 笠沙町片瀬
金官荘(旅館)

話し手

(略号)	(氏名)	(性別)	(生年)	(職業)	(居)	住	歴
H 林 達郎	男	大正6年生	商業	既	出		
Y 山中房子	女	〃12年生	農業		〃		

解説：町の顔役である男性が小学校の運動会に婦人会としても参加するよう女性に頼む；女性はこの次は踊りなどけいこして参加するようにしたいという話。

H k o N m a j a o m a j a : g a q k o N k w a i g a a q t e c j o t o
この前は あなた、 学校の 会が あって ちょっと

huziNkaino koqde agtaqdo omaja:
婦人会の ことで あったぞ あなた。

Y hai
はい。

H siqkai:ki:cinqkja i na:
しっかり 聞いておきなさい ね。

Y hai
はい。

H aN: sinognon a:
あのう 椎木の わ。

Y hai
はい。

H kaqkosantaqjara: kosaqzjamaN ara macusitado-
克子さんたちやら、 高崎山の あれば 松下ど

Nna naNcju hutokao hara
んは なんという 人かね ほら。

Y kazukosan na
和子さんですか。

H a: a: kazukosantaqga: gaqkon omaja: monno
ああ、 ああ、 和子さん達が 学校の あなた 門の
maede hajasaN (hajaq)san iqtoq maqcjai maqc-
前で 「林さん 林さん ちょっと 待ちなさい 待ちな
ja i ciute i jai mon jaqde naigoqkaoci ataimo:
さい」と 言われる もの だから、 何事ですかと 私も
tamagaqtetomaqtataisa:
びっくりして 立ち止まったのさ。

Y hai
はい。

H sositaja na: hajasisan kondon aN: undo:kai-
そしたら ね。 林さん 今度の あのう 運動会
niwa dositeN sora katauraN huzinkaino-simo
には どうしても 片浦の 婦人会の連中も

a no d e t e m o r o g o t o : o m a N s a . N h o k a r a h a n a s i
あのう 出て 貰う ように あなたの 方から 話。

s i q t a m o h a N k a c i : t a n o m a r e t e o m a j a :
して 下さいませんかで 頼まれて あなた。

Y e :
ええ

H e m a t a o m a i t a j a : s o N k o N d o N t o m o n a N z j a i
え、 また あなた達は、 今度のも 何にも

m a d a k a t a i j o c j a o i j a r a N t o k a
まだ 語り合っては おられないのか。

Y i : j a ²¹⁾
いいえ。

H b o j a h i k a n e : s a h u t o k a b u r a k i o q t e s o N k a t a -
ほんやり ね、 それは 大きい 部落に いて 一片

u r a N h u z i N k a i N d e r a N c u k o g g a a i m o N j a q e u k a
浦の 婦人会が 出ない という ことが ある もの なのか。

s o N : c i q t a k o : ²²⁾ d a i k a i m a N k w a i c j o w a d a i -
少しは こう。 誰か 今 の 会長は、 誰
j a q t o k a o
なのかい。

Y n a m a i j u w a n n a s u N m o h a N t o k e
名前 言わなければ いけないのですか。

H s o : n a : o : s o r a : k i q k i j a r e a : N n j a ²³⁾
そう ね。 おお それは、 聞きなされば、 いいえ。

Y i m a h o r a a i g o a N d e j a a t a i n a N d a k a i c j o : c j u w a
今は ほれ、 あれ ですもの。 私なんか 会長 というの
k i m a h a N z i o
決まりませんで ね。

H h a
は。

Y i q k a g e c u k o : t a i d e s i q o N d e j a h a r a
1ヶ月 交替で して いますから ほら。

H ha: ha:
はあ、 はあ、

Y kaicjo:o na:
会長を ね。

H aq soide o kongeqno to:ban na daikao
あっ、 それで ね。 今月の 当番は 誰かい。

Y NR

H nancina
何だって。

Y jaqpai namai ju:mositona
やはり 名前を 言います。

H juqkaqsjareja siqcioijaq toka ora sitaN moN...
教えてくれれば 知っておられる 時は。 私は 知らない もの…。

Ynamaec i ataimo wakahaNa kora
名前って 私も わかりません ほら。

H naina wakarazina
何です。 わからぬでかい。

Y hai
はい。

H sa da re so:dan no surea jokarekai na: jamaN-
さあ、 誰に 相談を すれば よかろうかい ね。 山の
24)
cjan ni juq mirokai na:
父さんに 言って 見ようか ね。

Y hai
はい。

H ai jara aN-sjujarani: naNkakaNka kataq miro-
あれやら あの連中やらに 何かいろいろ 語って 見よう

kai
かい。

Y hai
はい。

H sosite sora dositeN omaitaqno jaqpa i waqka
そして ほれ、 どうしても あなた達が やはり 若い

25) taq jaqtad e: cju:sinni naijarana sumanci
方 だから 中心に ならなければ いけないと

omotaqde

思うので

Y hai
はい。

H kondodoma: dejareja joka seN seenna na: kodo-
今度こそ 出られると よい。 そうしないとね、 子供

Nga muinakataqcio
が 可哀そうだものね。

Y zjasito na:
そうです ね。

H hokan tokoino na: aN. huzinkaino-siN: dejakte
外の ところの ね。 あのう 婦人会の連中が 出られるのに

omaja: wageN buraqkara dejaran mon jaqde
あなた、 自分の 部落から 出なさらん もの だから、

Y hai
はい。

H hara kodonno-siga na:
ほれ、 子供の連中が ね、

Y hai
はい。

H tozinaka jona hu jaqdo
さびしい ような 様子 だよ。

Y hai
はい。

H de: seqkaq son: ko:kun aN kaNbuN-simo seN
で 折角 そのう 校医の あの 幹部の連中も そう

jute i jaqtad e
言って 言われるで、

- Y hai
 はい。
- H koto hidoma mo: sa atai jara sora mo: hasigu-
 今年こそは 私やら そら もう 橋口
- q jara site mata: ko: sora nnu site mo qkakeq
 やら して また こう 相談を して もちかけて
- ku q d e:
 来るから,
- Y hai
 はい。
- Fi s o N t o k a s o r a o m a i t a c i m o d o s e t a n o m a n n a
 その 時は あなた達にも どうせ 賴まなければ
- n a r a n k o q m o d e q t a q d e n a:
 ならぬ ことも 出るのだから ね。
- Y hai
 はい。
- H j o k a h u i s i t e h i t o q koto hidoma mo: u n d o : k a i -
 よい 様に して 一つ 今年あたり 運動会
- n i o d o i s i t a t e q k u r e j a i n a:
 に 踊りを 仕立てて お呉れ ね。
- Y hai keikoni i q m o h a n n a r a h o r a
 はい。 稽古に 行きませんなら ほら。
- H a: m a t a k e k o w a s e q k a r a n a:
²⁶⁾ ²⁷⁾ もちろんさ、 稽古は しなくちゃ ね。
- Y hai
 はい。
- H k e k o c j u t a c i: s o: n a: j a q p a i s a: h i w a s i g o c u
 稽古と 言っても そう ね, やはり ね 昼は 仕事を
- s i t e b a n m o i s o g a h i k a i j a q t a q d o n k a r a
 して 晩も 忙しくあられるんだけれども
- Y hai
 はい。

H so ja ma dok o N-s i mo s e N si ja q t a i k o t e: oma ja:
それは まあ、何処の連中も そう なさるのだ もの あなた。

Y ne N ni i q d o n o u n d o : k a i g o a n d e : h a m e c u k e m o b a n t
年に 一度の 運動会 ですから, ²⁸⁾ 頑張らなければなりま
n a r a oma ja
せん あなた。

H k a t a u r a N-s i b a q k a i s i j a q t o j a n a s i t o
片浦の連中だけ なさるのじゃないし,

Y h a i
はい。

H s i g a n a r a N c u k o q g a a i m o N k a oma ja m u k a s j a
でき ない という ことが ある ものか, あなた。 昔は
oma ja k a t a u r a N h u z i n k a i n o - s i g a g j o k u r i n k o : -
あなた 片浦の 婦人会の連中が 玉林校区の
k u N h u z i n k a i n o - s i : r i : d o s i o i j a q t a q d e s a :
婦人会の連中を リード して 居られたから ね。

Y z j a s i t o n a :
そうですの ね。

H w a g e N o q k a h a N k a r a k i q m o N z j a q t a t a i g a
うちの お母さんから 聞く もの だったのよ。

Y h a i
はい。

H z u N d a r e j a N n a c i o c i q t a s i q k a i s i j a r a N k a
だらだらなさるなよ。 少しは しっかり なさらないか。

Y h a m e c u k e m o s a k o N d a :
頑張りませんなら 今度は。

H j o k a n a
いいかい。

Y h a i
はい。

H e : h o N n a r a
ええ それなら。

- 29)
 Y hatareq keikon i itate
 精出して 稽古に 行って,
- H N
 うん。
- Y de: mata hokan-si:mo juqkasemoha nara:
 そして また 外の連中にも 教えませんなら。
- 30)
 H seN siq kurejai
 そう して 下さい。
- Y hai
 はい。
- H soide: honnara ma atai ga mata: kju asita N
 それで それなら ま 私が また 今日 明日の
- uci sora aN-si:tomo banasu site o
 うちに あの連中とも 話を して ね,
- Y hai
 はい。
- H de: moi tacu goq suqde
 それで 盛り上がる ように するから。
- Y hai
 はい。
- H ma: omaNs a:mo sora mo ima atai kara kiqkjaq-
 まあ あなたも ほら もう, 今 私から 聞かれ
- tataqde sora na:
 だから ほら ね。
- Y hai
 はい。
- H sosite ma: waga tomodaqno: soN kino ota-
 そして まあ 自分の 友達の その 気の 会った
- s inideN o:
 連中にでも ね,
- Y hai
 はい。

H ma: koto hidoma kora keN site: seN site ma.
まあ 今年あたり こう して そう して

ano: sodaNno uketataqde jarowa cju: guwaini
あのう 相談を 受けたのだから 「やろう」 という 具合に
ciqtoden ko. ku:kio cukui itaq kuijahanka
少しでも こう 空気を 作って 行って 下さらんか。

Y hai
はい。

H so · sur ja: joq koto hidoma: joka hui iqtara-
31)
そう すれば 今年あたり いい 按配に 行くのでは
seNka
ないか。

Y hai
はい。

H na
ね。

Y hai
はい。

H naNcjiutaci mo: oma itaqga cju: siN jaqtaqdeja
何と言ったって あなた達が 中心 だからよ

s a:
ね。

Y hai
はい。

H na
ね。

Y hai
はい。

H seN siq kurejai honnara mo: tanonde sora na:
そう して お呉れ。 それでは もう、 頼むから そら ね。

Y hai
はい。

H hai
はい。

Y hai
はい.....。

3. 結婚式の今昔

録音日時 1966年11月19日

録音場所 笠沙町片浦
金宮荘(旅館)

話し手

(略号)	(氏名)	(性別)	(生年)	(職業)	(居住歴)
K	仮山長太郎	男	大正2年生	町役場職員	0~現在まで在郷但し、2,3か月の程度で季節的に長崎県・山口県島根県に出稼(20才~30才)
M	前田ナツエ	女	明治42年生	商業	0~15才 在郷、15~20鹿児島市、20~21福岡市、21~36京城、36~在郷

解説：昔の結婚式はこっそりと取りおこなわれ、花嫁にもいたずらをするものであったが、今はされることもなく旅館などで披露もかねて行うようになった。話手(女)の最近身内でとり行われたことをとり入れながら話は進行している。

K nacjan koncja
夏ちゃん、今日は。

M konniciwa
今日は。

K doqka iqkjasitana
何処か 行かれたのですか。

M hai
はい。

K ohanan konogora jo:icirokuN-gate naikaga gozu-
あなたは この頃は 洋一郎君方に 何か 結婚

Nke: kwank eide i q kjaq taci ki qmos ita onka raN
の 関係で 行かれたと 聞きましたけれども。

M ha.i soi no koqde na: atai ima si ntan to si ozi-
はい。 その ことで ね。 私は 今 下の 藤四おじ

s aN kate i qmos itato:
さん方へ 行きましたのよ。

K so:na
そうですか。

M hai
はい。

K joka kocu si jasita na:
よい ことを なさいました ね。

M okagesa: de joka koq goz asita
お蔭さまで よい こと でした。

K waqze: konogoronta: ko: hade naqte: mukasi-
すごく この頃のは こう はでに なって 昔
to simose ja i gen ka cigo eq cumo n ga
と しますと、 なんだか 違っている と言いますが。

M seN go asito
そう ですの。

K ikena huni imanta: si jaq to go ahika
どんな 風に 今のは なさるの ですか。

M ma: na: mukasa hora ano wage nmo ino go ziu n ke
まあ ね 昔は ほら あのう 自分辺の 結婚
cuwa mo: nakada q do Nno mod oke it ate
33)
というの 仲立ちさんが 貰いに 行って,

K hai
はい。

M kure jaq tamohankaci
下さい ませんかと
34)

K hai
はい。

M a g e m o n d e c i j a N s e b a:
差上げますよ と言われば、

K h a i
はい。

M s o s i t e h o r a m a t a k o n d a a N o j a N - s i t o n a k a d a -
そして ほら また 今度は あのう 親の方々と 仲立ち

q d o N t o o:
さんと ね、

K h a i
はい。

M s o c u t o s a k a n a o m o q t e i q k j a i m o N g o a s i t a g a o:
焼酎と 着を もって 行かれる もの でしたわね。

K z j a s i t a n e · z u d o N n o g o z u N k e c u t e n a: j u m o N
そうでした。 ねずみどんの 結婚式 といって ね 言う もの

z j a s i t a i
でしたよ。

M h a : i n e z u N n o g o z u m u k e c u t e g o z j u N k e o s i j a q
はい。 ねずみの 結婚式 といって 結婚式を なさる

t o k a m o k o q s o i t o
時は もう こっそりと

K h a i
はい。

M h i t o n i w a k a r a N g o w a k a r a N g o k o s o k o s o k o s o
人に わからない ように、 わからない ように、 こそ こそ こそ
k o s o
こそ

K h a i
はい。

M a n o c u r e k e i t a t e
あのう 連れて 行って、

K h a i
はい。

M so i mata h u t o N - s ja o :
それに また 人々は ね,

K h a i
はい。

M k o s o k o s o d o q k a r a k i q k a z i q j a q t a j a r a k o N n j a :
こそ、 こそ、 どこから 聞きかじりなさったやら 今夜は
a h i k e g o z u m u k e g a a q c u g a c u t e
あそこに 結婚式が ある そうだ と言って

K z j a s i t a t o n a :
そうでした ね。

M z o r o z o r o z o r o z o r o m i n n a h o g o m e k a r a m i k e
ぞろ ゾロ ぞろ ぞろ みんな 障子の穴から 見に
k i t e :
来て,

K h a i
はい。

M a m a d o : s i m e t e :
雨戸を しめて,

K z j a i o s i t a t o ³⁵⁾ n a :
そうでしたよ ね。

M k o q s o i s i j a i c u m o i n o t o g a m i : N n a k o s o k o s o
こっそり なさる つもりなのが みんな こそ こそ
m o z o r o z o r o c u t e k i t e m i k e k i t e n a :
もう ぞろ ぞろ 付いて 来て 見に 来て ね。

K z j a i o s i t a i n a :
そうでしたよ ね。

M a g e n a g o z u N k e g o a s i t a d o g a o :
あんな 結婚式 でしたろうがね。

K h a i s o s i t e m a n a r a q t o c j a m a q c j o q t e
はい。 そして まあ 並んで 途中は 待って いて,

M h a : i
はい。

K i s u n a g e t a i z a k o : n a g e t a i
石を 投げたり, 雑魚を 投げたり,

M h a i
はい

K n i w a t o i t o b a s e t a i s u i m o N z j a q t a i n a : o m o s i -
鶴を 飛ばせたり する もの だったよ ね。 面白
t o k a m o N z j a q t a c i o
い もの だったよね。

M o t o k o n - s j a n e q k a r a m i q n o h a t e h a h i g o : n a g e -
男の連中は みんな 道の 傍に はしごを 投げ
c u k e t a i
つけたり,

K h a i
はい。

M t o : j a n a r a N g o q s i t e
通られ ない ように して

K h a i
はい。

M k o m a r a s e g o i j a s i t a d o g a o :
困らせていましたでしょう。

K z j a s i t a o : n a :
そうでしたよ ね。

M i m a : s o i k a r a m i r e b a i m a d o q n o - s j a h i r a k e t e :
今は それから 見れば 今時分の人々は ひらけて,

K z j a n g a
そうですよ。

M s o g e N w a r u s a m o s i j a h a N g o q n a s i t a d o N
そんな 悪さも なさらない ように なりましたけど,

K h a : i
はい。

M n a : s o N g o z u n k e N j o : s i k i g a m a t a s o r a a n o
ね。 その 結婚式の 様式が また ³⁷⁾

38)

m u s u b u s i t e m o r o k e i q t o k i
 結びを して 黄いに 行く 時

K z j a n g a n a :
 そうです ね。

M m o r o t e k i m o n s e b a o : m a t a a n o k o n d a s a k a n a t o
 貰って 来ますと ね, また 今度は 看と
 s o c u t o m o q t e i t a t e
 燃酌と もって 行って,

K h a i
 はい。

M k o n d a m a t a s o N i m a d e j u : h o r a a n o j u i n o : k i n
 今度は また そのう 今で いう ほら あのう 結納金
 c u t o o b a n a :
 というのを ね,

K h a i
 はい。

M m o i q z u i m o m a g o i o i j a s i t a d o g a o :
 39) 40)
 もう いつまでも 待っておられたろうがね。

K z j a i o s i t a i n a :
 そうでしたよ ね。

M s o s i t e i j o i j o j o m e s a n g a k a e q t e k i t e k o i k a r a
 そして いよいよ 嫁さんが 帰って 来て, これから
 k e q k o n s i k i s u q c j u m a e N h i n i n a q k a r a m i n n a
 結婚式 する という 前の 日に なってから みんな
 j u i g o n k i N n u m o q t e i q g o i i j a s i t a d e h o r a n a :
 41)
 結納金を もって 行くものでしたから ほら ね。

K h a i h a i
 はい。 はい。

M s o i d o N k o n o g o r o w a m o : a n o : m a t a i c i b u d e w a
 42)
 だけど この頃は もう あのう また 一部では
 m a d a s o n o s i k i o s i j a q t o k o i m o g o a n d o n k a r a N
 まだ その 式を なさる 処も ありますけれども

h o r a
ほら。

K h a i
はい。

M a n o i m a : m o : m u s u b i c u t e
あのう 今は もう 結び と言って,

K h a : i
はい。

M o s a k a n a t o : s j o c u t o m o q t e i q m o N d o g a o
お肴と 焼酎と もって 行きますでしょう。

K h a i h a i
はい, はい。

M s o N t o q m o c u i d e n i a n o j u i n o : k i N m o c j a N t o
その 時 ついでに あのう 結納金も ちゃんと
a t a j a m o o s a m e q k i m o s i t a
私は もう 納めて 来ました。

K e :
ええ。

M k o N d a :
今度は。

K s o r a j o k a k o c o s i j a s i t a
それは よい ことを なさいました。

M h a i
はい。

K m u k a s j a o : a N m i a i k e q k o N c j u n a m o N d e
昔は ね、 あのう 見合結婚 というような もので,

M h a i
はい。

K a h i k e i k a n k a m o r o k e i q k j a q t a g a c i j a ⁴³⁾
「あそこに 嫁がないか 仲立人が貰いに 行かれたよ」 と言えば,

M h a i
はい。

K mo sijonasi iq mon ziaqtadon
もう 仕様なし 嫁く もの だったけれども。

M hai
はい。

K imanta an renaikeqkontoka nantoka cuito:
今のは あのう 恋愛結婚とか なんとか 言うのを
simosi cumosai na:
すます そうですよ ね。

M sogen goasito
そんな です。

K zigota mon cjuwa na imadoqno-sinta:
違った もの だよ ね、 今時分の連中のは。

M 笑い

K hedonka: N mu⁴⁴⁾ muqkasi goasnai na:
けれども むづかしい です ね。

M hai
はい。

K (ho)nnokote: nakadamo sora noqsjahame
本当に 仲立ちも それは つらいことでしょう。

M hai
はい。

K i qgoro si jaqtahika sosite
いつ頃 なさいましたか それで。

M ataiga joiciro: mo na:
私の 洋一郎も ね。

K hai
はい。

M an wag a suki de:
あの 自分が 好きで、

K hai
はい。

M gesiteN obasan aN ko· moroq kui jaraNka ci
どうしても 伯母さん あの 娘を 貰って 下さらないかと
46)

jute
言って,

K e: z jahicuro:
ええ、 そうでしたらう。

M hai
はい。

K hi q cuq oqtatai na: honnara na:
くっついで おったんだ ね, それなら ね。
47)

M ha:i
はい。

K e:
ええ。

M wagadoga mo hanasiote:
自分たちが もう 話し合って,

K e:
ええ。

M ano gesiteN na: ke qkonnu su go aq cju mo N go a-
あのう どうしても ね, 結婚を した い という もの です

N de
から,

K hai
はい。

M waga sukinara mo so geN se c iute
自分が 好きなら そんなに せよ と言って,

K a: so:na
ああ そうですか。

M sosite ta qkonimo katai jute
そして 辰子にも 語りあって

K ha·i
はい。

M ano tojozisanmo mo joka koq jaqci jute ku-
あのう、豊二さんも もう 「よい こと だ」と 言って く

rete
れて、

K hai
はい。

M sosite hora mo moroke iqmositaja
そして はら 黄いに 行きましたら、

K hai
はい。

M mukon-simo mata iqli tamosite hora aigate
向うの方々も また すぐ 下さって ほら、 ありがとうございました
koq jaqtaci
こと だったと。

K e: sora joka koq zjaqtai na:
ええ、それは よい こと でした ね。

M soide mo okagesade na joka anbe goasitato:
それで もう お蔭さまで ね、 よい あんばい でしたのよ。

K soide dokode si jaqto goahika gozunkewa:
それで、 何処で なさるの ですか 結婚式は。

M konda na:
今度は ね。

K hai
はい。

M imadoka hirakete:
今時分は ひらけて、

K ha:i
はい。

M ano kanemijaso:de rjo:hoq⁴⁸⁾
あのう 金宮荘で、

K e: asukoden a:
ええ、 あそこでですか。

M rjo: ho:kara joqte
両方から 寄って。

K rjo: ho:kara joqto goahika
両方から 寄るん ですか。

M hai
はい。

K are:
あれっ。

M sosite mo: otokon emo onagon emo minna
そして もう 男の 家も 女の 家も みんな,

K hai
はい。

M ninzuo kataijote
人数を 語りあって,

K hai
はい。

M sosite kanemijaso:de mo iqsjoni:
そして 金宮荘で もう 一緒に,

K iqsjoni na:
一緒に ですか。

M ano asukode sakazuqmo sasete
あのう あそこで 盃も させて,

K hai
はい。

M sosite mo hiro:enno imide iqsjoni suqto goa-
そして もう 披露宴の 意味で 一緒に するん です

N ga
よ。

K hiro:enmo iqsjoni goahika
披露宴も 一緒に ですか。

M hai
はい。

K e: imadoN note; c i g o c j o N s a i n a: ええ、今時のは 違っていますね。

M hai
はい。

K soi doN ka:N ja q p a i k a N daN ja h i k a m o n a: imado—
そうだけれども、やはり 簡単 ですかも ね 今時

N n o t o g a
のが。

M k a N t a N d e:
簡単で、

K e:
ええ。

M mo: miN na hora wage: de suq tok a neqkara
もう みんな ほら 自分の家で する 時は、みんな

rjori cukui ano zuicukui gaq cui miN na kuro:
料理 作りに 大変 みんな 苦労

s i m o N d o g a o:
しますでしょう。

K huqka miqka kakai moN z j a s i t o, n a:
2日 3日かかる もの ですよ ね。

M hai soi doN karaN mo: tada kim o N nu k i te ah ike
はい そうですけれど、もう ただ 着物を 着て あそこに

s u w a r e b a
坐れば。

K hai
はい。

M mo: i q k i go q s omo dete o:
もう すぐ 御馳走も 出て ね。

K z j a N s a i n a:
そうですよ ね。

M beN r i n a j o n o n a k a i na q t e k i m o s i t a
便利な 世の中に なって 来ました。

K mendō simohanto na:
面倒 しませんね。

M hai
はい。

K hosite nanzikanbaqkai kakai mon zjahikao
そして 何時間ばかりかかるものですか。

M ma: joiciro:ga toka nizikara goasitade
まあ 洋一郎が 時は 2時から でしたから,

K hai
はい。

M sjasinnu ucusitai sjasin ucusi zikanga ka-
写真を うつしたり、 写真 うつしに 時間が か

kasite o:
かりまして ね。

K e:
ええ。

M soide ano jaqpai mo dete makasi toka sinko-
51) 出て まいります 時は 新婚

N rjoko:se: deq makasi toka: gozi sugiq osi-
旅行へ 出て まいります 時は 5時 すぎて いま

t a
した。

K o: mo sen suqto gowahika
おお もう、 そんなに するの ですか。

M hai
はい。

K imadonuta 53) uqci 54) gocjonsai na: waqze jokatansai
今時分のは 違っていますよ ね。 大変 結構ですよ。

na: mata
ね。

M hiwa mihikakasi mo usuguro naikakeqkara deka-
日は 短いし、 もう うす暗く なりかけてから 出掛

kete iqmosite na:
けて 行きまして ね。

K e: sora joka koq z jaNsa i na:
ええ、それは よい こと ですよ ね。

M kanemijaso: N uezui minna miokuqte tamosite
金宮荘の 上まで みんな 見送って 下さって

sora ano tanohika rjoko : se: de te makasitade:
それは あのう、 楽しい 旅行へ でて まいりました。

K e: kogeN cigo mon z jaNde ja na:
ええ、 こんなに 違う もの ですもの ね。

M gaqcui jossju gozasi ta o:
ほんとに よろしい でした わ。

K e: sa: mo: otecuqkjasicuro:
⁵⁶⁾
ええ、 それは もう 御安心なさったでしょう。

M hai oaigato mosjagemosu
はい。 ありがとうございます。

K mo: tojozisantaqja taqkosantaqnimo jorosju
もう 豊二さんたちや 辰子さん達にも よろしく
mosjagejaq tamosi
申上げて 下さい。

M hai oaigato mosjagemosu
⁵⁷⁾
はい。 ありがとうございます。

K atainandomo kagenagara jorokog oi kata goansa
私なんかも 蔭ながら よろこんで います。

M hai
はい。

4. 蓬だんご

録音日時 1966年11月19日

録音場所 笠沙町片浦金宮荘
(旅館)

話し手

(略号) (氏名) (性別) (生年) (職業) (居住歴)

M 前田ナツエ 女 明治42年生 商業 既出

Y 山中房子 大正12年生 農業

解説：路上で蓬つみから帰る女に出合い互に蓬だんごを作つて他郷の子供などに送つてやらなければならぬ話。

M *husakosa:n*
房子さん。

Y *hai*
はい。

M *konniciwa:*
今日は。

Y *konniciwa*
今日は。

M *waqze:ka* ⁵⁸⁾ *tenege kabuqte kagai karute doke*
あれまあ 手拭 かぶって かがり せおうて どこへ

i q k j i s i t a k a o
行かれたんです。

Y *huqcunk e inmosita*
蓬つみに 行きました。

M *e: mo sangaqno seqmo cikazuqmonde na: an*
ええ、もう 3月の 節句も 近づきますから ね。あのう、

Y *hai*
はい。

M huqga mo deg ositakao
蓬が もう 出て いましたか。

Y hai de ositado doqsa i
はい。 出て いましたよ, たくさん。

M e: ataimo huqcuNke ikaNna sumaNci omotaqdo-
ええ 私も 蓬つみに 行かなければ いけないと 思うのだ

NkaraN kora mo gaqcui iqkote iqda himo ha:N
けれど, ほんとに 一向 行けません。

Y hai
はい。

M s o s i q ⁶⁰⁾

Y utoN hamaN o:
⁶¹⁾ 大当の 浜の ね,

M hai
はい。

Y ueNmo i g a do.hikoden deg ondo
⁶²⁾ 上のあたりが どれだけでも 出て いますよ。

M e: z jahika ahikoataja
ええ, そうですか あそこあたりは。

Y ahikoNmo ja
あそこあたりは。

M a h i k o(a)t a j a h i a t a i g a j o k a n d e n a:
あそこあたりは 日当りが いいですから ね。

Y hai
はい。

M e: mo saNg aq no se q g a cikazuqmosita na:
ええ, もう 3月の 節句が 近づきました ね。

Y hai
はい。

M ataimo hajo site o: aN dagomo kodomonimo
私も 早く して ね 団子も 子供にも

okuqte jaranna sumantaqdonkara omo oi koqb
送って やらなければ いけないのだけれど 思っている ことば

qkaide iqkote gaqcui kane:mohaNna kora na:
かりで 一向 ほんとに 叶いませんよ こら ね。

Y hai
はい。

M omaNsataka iqdeN seN site i qg a. naijande joka-
あなたがたは いつでも そう して 行け ますので よろし

N do:N mo i qgoro cukuijahikao dagowa:
いですが いつ頃 作られますの 団子は。

Y dago na:
団子です ね。

M hai
はい。

Y saNgaqno seNno jaqpai hini cuqmohaNnara na:
3月の 節句の やはり 日に 掲きませんなら ね。

M saNgaqno a(N)hino miqkan hini cukuijahika
3月の あの日の 3日の 日に 作られますか。

Y hai
はい。

M atainanda kodome okuranna sunmohande na:
私なんか 子供に 送らなければ いけないですから ね。

Y hai
はい。

M ciqta hajo cukuqte:
少しほ 早く 作って,

Y hai
はい。

M aNmai nuk u naran uci hajo: ano okuihan na:
あまり 暖く ならない うちに 早く, あのう 送りませんと

uemando gao:
腐りましょう。

Y hai

はい。

M so i de iq ga joka q h jara mo h ajo jomogimo toi-
それで いつが よいやら、 もう 早く 蓬も 取り
ke i kanna sumaN sumanci omokata de na:
に 行かないと いけない いけないと 思いながら ね。

Y hai

はい。

M mata taqko saN ni den to q te more mo haN nara o:
また 辰子さんにでも 探って 貰いませんなら ね。
site ano mata h ajo okui mohanna hora ju: bi N-
そして あのう また 早く 送りませんなら ほら、 郵便
kio q g a mo iq doki na q te: da go N i amaga de ke-
局が もう 同じ時に なって 団子の 山が 出来
mon de hara na:
ますから ほら ね。

Y hai

はい。

M ko cu cu n ga iq doki na n se ba: o man sata ka do ke-
小包が 一度に なりますと。 あなた達は どこへ
z ja okui ja haN ton a
も 送りなさらないですか。

Y okui mo si to: a ta i domo ko: ben i
送りますの、 私たちも 神戸に。

M ko: b e s e: okui ja h ika
神戸へ 送られるのですか。

Y imo q g a hai it aq on de
妹が はい、 行って いますから。

M e: mi nna jo roku q bj a n de na:
ええ みんな 喜ばれますから ね。

Y ha: i ma: da go g a iq ba N joka cumo(N)d e hora na:
はい。 まあ 団子が 一番 よい といいますから ほら ね。

M ha:i sosite o:
はい。そして ね,

Y inakan a:ziga dete:
田舎の 味が 出て。

M hutekoq' cukuijahika dan go:
たくさん 作られますか 団子を。

Y ha:i ma nisubaqkai
はーい、まあ 2升ばかり

M nisubaqkai
2升ばかり?

Y hai
はい。

M mo ataja kotosa na: kodomoga nanninmo decio-
もう 私は 今年は ね、 子供が 何人も 出ていま
nde gosubaqkai cute
すので 5升ばかり 捣いて,

Y bojo
おや

M hajo dago: site okuranna sunmohaNgaci
早く 団子を して 送らなければ いけないと。

Y wazeka:
大変なこと。

M mata se:donkaraN taqqoni tanonde o:
⁶³⁾ また そうだけれど 辰子に 頼んで ね,

Y hai
はい。

M kozuqde morotai nai(si)taiseNna sumanto goan-
⁶⁴⁾ つき叩いて 貰ったり, なにしたりしなければ いけないの で

sasora
すよ それは。

Y kozuqkataga nohimohaN na:
つき叩くのが たまりません ね。

M ha:i z ja q c u m o N do: mo a t a j a mo.....
はい。 そうだそうですよ。 もう 私は もう.....

Y (t e m a m e g a) de k e t a i
手豆が 出来たり

M h a i n a i g o q c u e b a t a q k o s a N t a q k o s a N c u t e
はい、 何事 ていえば 辰子さん 辰子さん といって,
t a q k o n i b a q k a i c u k u q m o r o t o g o a n d e
辰子にばかり 作って 貰うの ですよ。

Y h a : i
はい。

M k o t o h i d o m a w a g a t e o k a k e t e c u k u r a n n a s u m a -
今年あたりは 自分の 手を かけて, 作らなければ いけな
n g a t o o m o t e n a :
いと 思って ね。

Y c u q g a n a i j a h i k a o
掲くことが できますか

M h a i c u q g a n a h i t o : o m a n s a c i q t o z u g d e N
はい、 掲け ますのよ あなた 少しづつでも。

65)
Y g o t e m o k a n a w a n g o q n a i j a n d o h o r a
腕も 叶わない ように なられますよ ほら。

M n m a k a d a g o j a n d e n a : s a N g a q n o s e q n o d a g o w a :
うまい 団子 ですから ね 3月の 節句の 团子は。

Y h a : i
はい。

M m i n n a j o r o k u d e k o d o m o N - s i g a m a q c j o N s a o
みんな 喜んで 子供の連中が 待っていますよ。

Y j a h i g a n a :
そうですよ ね。

M h a i
はい。

5. 八百屋さんと一婦人の対話

録音日時 1966年11月19日

録音場所 笠沙町片浦金宮荘
(旅館)

話し手

(略号)	(氏名)	(性別)	(生年)	(職業)	(居)	住	歴
H	林 達郎	男	大正6年生	商業	既	出	
M	前田ナツエ	女	明治42年生	〃	〃	〃	

解説：男は町や部落のいろんな役員で忙しい中から八百屋を開店している。新まいだ。仕入れ先の枕崎と往復することも多い。枕崎の百姓たちと顔見知りになり好意的によい野菜類を世話してくれる。女は新商売について何かと注意や激励のことばを投げかける。
実生活の対話が7で演出が3である。

M taq c ja : n koN ni ci wa :
達ちゃん， 今日は。

H ha koN ci wa
はあ， 今日は。

M kjuwa mo makurazaki itaq ⁶⁶⁾ ki jasitakao
今日は もう 枕崎に 行って 来られたの。

H o ima itate m o d o q kitabaqka : i
おお， 今 行って 戻って 来たばかり。

M e :
ええ。

H kesawa na
けさは ね

M hai
はい。

H ci q ta hajo ita mon ja q de sora
少しほ 早く 行った もの だからね。

M e : mata naika kai iqk jaq ta N so
ええ， また 何か 会に 行かれるんでしょう。

H(g) aq cui na mo i soga suite oma ja k juwa
ほんとに ね、もう 忙しくて あなた、今日は
mata hi:kara sora ano naika ho:gen no naika-
また 昼から あのう 何か 方言の 何か
ga aq ci jai mon ja qde
が ある と言われる もの だから。

M ha:i
はい。

H ho idemo kesa oma ja hac izinkorowa ma: soN
それでも けさは あなた、 8時の頃は、 まあ その
mae tamago to i kemo ko:rena ikanna sumahi
前に 卵 取りにも 小浦には 行かなければ いけないし
ja qta de na
だったから ね。

M ha:i
はい。

H tamago to ike itate sosite mo: sora atai mo:
たまご とりに 行って、 そして もう それは 私 もう
jase koke: iq de te kara: mo: teg e: si qc ja qka-
野菜 買いに 行き初めてから もう 大概 7 8か月
ge q na qta mon ja qde na
に なった もの だから ね。

M ha:i
はい。

H mo: mukon hijaq sjoN joka tokoi si qc joq taq cio
もう 向うの 百姓の よい ところを 知っているので よ。

M e: site joka moN cu a
ええ、 それは よい ことだわ。

H soka na:... zu: ci ike ja na
そこへ ね、 ずっと 行けば ね,

M ha:i
はい。

H do:sikoden aqtaqcio
どれだけでも あるんだよ。

M e:
ええ。

H soide: kesa hajo itate ima modoq kimosita
それで 今朝 早く 行って 今 戻って 来ました。

M mo sonna: hon sjoka uqcjeq oqte kwai kwai cju-
もう それなら 本職は 打ち 置いて 会 会 と言っ
te neNzu kwaibaqqai ita oijaqtadeci eqcjan-
て 年中 会ばっかり 行って おられって 悅ちゃん
mo muhine mon jansao: wageba:qkai rusubanba-
も かあいそうな 者 ですわ。 自分の家ばかり 留守番ば
qkai site:
かり して,

H u:N soide minna seN i ja: taqdonkaraN omaja
うん、 それで みんな そう 言われるんだけれど あんた,
si jo:wa nakadeja sora oiga ken: seNna na:
仕様は ないんだもの。 私が こう しなければ ね。

M ha:i
はい。

68)
H dakara ma: okagesade: mo ima:saqmo juta
だから まあ お蔭様で、 もう 今先も 言った
goq na: makurazaqdemo: si:ega deketai site o:
ように ね、 枕崎でも 知り合が 出来たり して ね。

M ha:i
はい。

H aqci urouro koqci urouro seNzi na zikanga na
あっちへ うろうろ、 こっちへ うろうろ しないで ね、 時間が ね,
69)
mihikosite ikeamoi qki: son si:rega nai
短くて。 行けば もう すぐ 仕入れが 出来る
mon jaqde ma son teNna konogora ciqta nareq
もの だから。 まあ その 点は このごろは 少しは 飼れて

kimosita:
来ました。

M mo ciqta narejasitakao
もう 少しは なれましたか。

H ha:
はあ。

M sosite gen jahikao kjabecuwa mada newa sagas
そして どんな ですか。 キャベツは まだ 値は さが

imo hankao
りませんか。

H konogora ci:qto sagat a
この頃は 少しは ぎがった。

M dohiko simohikao
いくら しますか。

H ima na ima guramude: so: na: ataiga ugt a
今 ね、 今 グラムで そう わ、 私が 売った

70) tokja ma: goeN kara rokueN cu tokoi jaqdo
時は まあ 5円から 6円 という ところ だよ

oma ja
あなた。

M so idon karan jaqpa i mada hitog kaeba nanzju-
そうだけれど、 やはり まだ 一つ 買えば、 何十
e Nci simondogao:
円で しますでしょう。

H sora suqto: oma ja omosa jara sora son ta
それは するのよ あんた、 重さ だよ それは、 そいつは。

M ataja kjabecuga suq jaqdon kara anmai taqka
私は キャベツが 好き だけれども、 あまり 高
kara tamo ig a naran
ければ 食べることが 出来ない。

H anna
あのね。

M hai
はい。

H ataimo omaetaqno seN i jaigato mote: makura-
私も あなたたちが そう 言われると 思って, 枕崎
zaki itate aN h jaqsjoN-sikara ko: toka na:
に 行って 百姓の連中から 買う 時は ね,
jaqpai o waga teni kakaqte na kaika joNato-
やはり ね, 自分の 手に さわって ね, 軽い ような
kara omaja moq kuqtqdo:
から あんた 持って 来るんだよ。

M e:e
ええ。

H ata idoNga moq kuqta omaja iqbaN kaika tagdo
私なんかが もって 来るのは, あなた, 一番 軽い のだよ。

M kaikata omaNs a nakaga meq orande Nmo naka-
軽いのは あなた, 中が 卷いて いないから うまく ないの
taNs a sora
ですわ。

H N:nja sono ka:i na
いいえ, その 代りに ね,

M hai
はい。

H oiga juqkasugde⁷¹⁾
私が 教えるから

M hai
はい。

H mecjoranCi
巻いていないとて。

M hai
はい。

H cja:Nto aNta ataiga moq kuqta na: aN-sini
ちゃんと そいつは 私が 持って 来るのは ね, あの連中に

ki : te suqtaqde na ko : haqpao ki : jaq toka
聞いて するのだから ね。 こう 葉っぱを 切られる 時は
na ja : rasika : sono joka aqno kja beq jaqtag-
ね やわらしい よい 味の キャベツ なんだ
do oma ja
よ あなた。

M e : a N na : makurazaki iqkjaqta toka sora
ええ あの ね、 枕崎に 行かれた ときは ほら
kacuobusio moqte kijaqta mo obejasitadogao:
軽節を もって 来なさることは もう 覚えなさったでしょうね。

H a :
はあ。

M omaNs a : a hara : a N makurazaqko : cja cute ju : -
なあたは ほら あのう 枕崎紅茶 といって 有
me i de n o N de mi ja N se ri puton n a n d o joqkan
名で、 飲んで みなさい。 リブトンなど よりが
do : hikoci N maka taqde
どれだけか うまいの だから。

Hse N toga doke aq toka o
そんなのが どこに あるのかい。

M N : na makurazaki omaN na ko : cja g a a : N ko : ba-
うん ね 枕崎に あなた、 紅茶が あのう 工場
g a a q t a n d e hara
が あるんです ほら。

H e :
ええ。

M ahikokara moqte kijareba uruimo uruqtando
あそこから 持って 来なされば、 売れるも 売れるんですよ。⁷²⁾

H nnja sora mo sitaN moN zjaqta :
いや、 それは もう 知らない もの だった。

M minna na : mijagenja hara makurazaki ko : cja
みんな ね 土産には ほれ 枕崎紅茶

cute mo q te iqk jaq tande
といって 持って 行かれるんだから。

H e: so: na
ええ、 そうなの。

M ha: i koke daseq iqk jaN seba hora
73) はい。 ここに(店に) 出して 置かれれば ほれ。

H sora dosikobaqkai suikao
それは いくらぐらい するのかい。

M hitoqga na: ano komanka kang a nihjakue N
一つが ね、 あのう 小さい 缶が 2百円

j a N do:
ですよ。

H e: so: na
ええ、 そうなの。

M ha: i jadon taekonandomo jokohamase: mod oq
74) はい。 うちの 妙子なんかも 横浜へ 戻る

toka iqso aiba to: baqkai tojodasan ni tanon-
ときは、 いつも あれを 10ばかり 豊田さんに 頼ん

de kote moq iqtaqdo:
で 買って もって 行くのよ。

H so: e: sa: ataja sitannaqta sa: kondo: mata
75) そう ええ、 それは 私は 知らなかつたよ。 今度 また

asaqte: iq goq naqde sa maqqasiraniden ita-
あさって 行く ように なるから 町頭にでも 行つ

te tanneq miranara na sora joka kocu juq-
て 尋ねて 見なければ ね。 それは よい 事を 教え

76) kasejaqta
て下さった。

M ri puton nandojoka na: ataja makurazaqko: cian
リプトンなどより ね 私は 枕崎紅茶の

hoga dohikoci Nmaka
方が どれだけか うまい。

H ha ma aigato goasita anta mo:
はあ まあ、ありがとう ございました、そいつは もう。

M naimokaimo oboejahanna:
何もかも 覚えなさらなきゃあ。

H zjato ho:Nde na:
そうよ。それで ね。

M ha:i sinmaisan jaqde hai
はいい 新まいさん だから

H joka kocina na:
よい ことには ね。

M jasaimo atarashikato moq kite jasu ui jahanna
野菜も 新しいを もって 来て 安く 売りなさらなければ
na:
ね。

H ha: jasu uqto
はあ、 安く 売るよ。

M joka buni juqkasuqtaqde
よい 様に 教えてやるんだから。

H soide na:
それで ね。

M hai
はい。

H an naqciaN na: nai jaqdON jokado omaia,
あのう 夏ちゃん ね。何 だけれど いいぞ あなた

ataja doke itateN motete na:
私は どこへ 行っても もてて ね。

M ha:i
はい。

H hoide na: ahikon e ikeakokon obasaNno omaN-
それで ね、 あそこの 家に 行けば、 ここ 小母さんが 「あなた
sa dokon hutonaci i jaqde na
は 何処の 人の」 と言われんわ ね。

M hai
はい。

H N tokorowa dokoden yokataiga obasan ci; te
うん。「処は どこでも 良いのだよ、 おばさん」と言って
katareba na e anna aN nizinna na ahikon 旦
語れば ねええあのね、「あのう人蔵は ね、 あそこの
uci iqkjarea ahikon uqnotoga yokatoga goan-
家に 行きなされば、 あそこの 家のが 良いのが ありま
do c jute na mo doqko sokoi ikeja juakasejag-
すよ」と言ってね。ね。もう どこ そこに 行けば、 教えて下さるん
taqcio hoide iken jarokai na omo nanden
もの。それで どう だろうか 私も たしか
hioqto sureja nigo:ka sango:ka deketakamo
ひょっと すれば、 2号か 3号か 出来たかも
sirendo omaia ora mo sita:ndo
知れないぞ あなた。私は もう 知らんぞ。

M jaqtaci mo: seN uka uka site jasaino kusa-
そうだった たって もう うか うかして 野菜の 腐
renado cukamasarengoto site
ったのなどを 摺かませられないように して

H wojo wojo
おや、 おや。

M hajo modoq ki jahanna saqsato iqkjasitataokja
早く 戻って 来られなければ さっさと 行かれた時は。
78)
H nnja senkoq seN kocja sento ataja na hoide
いいえ。 そんな 事は せんよ 私は ね。それで
itatoka na: keN juto jase koke itate iqban
行った時は ね、 こんなに 言うよ。 野菜 買いに 行って、 一番
ataiga na: imademo ko: aN-sikara jorokobare
私が ね、 今でも こう あの連中から 喜ばれて
oqta na: ma: itate nigiran koq
いるのは ね、 まあ 行って 値ぎらない こと。

M bojo
おや。

H ma negiran koq sosite na: sinameng aqde⁷⁹⁾
まあ 値ぎらない こと。そして ね、 品物が
are ja na: amo obasantaci obasantaq sora
あれば ね、 小母さん達に 「小母さん達よ,
omaetaqno wagadoga uijaqtaqde ataja kote⁸⁰⁾
あなた達が 自分自分 売られるのだから 私は 買って
iqtaqde mata kora ano okjaqsanni urana
行くのだから あのう お客様に 売らなきゃ
sumantaqde obasantaqno son jokaci omojagto:⁸¹⁾
いけないのだから 小母さん達が その 良いと 思われるのを
ataigate zi qkirobaqkai irejai na: ataja mo
私の分に 10キロばかり 入れなさい ね。私は もう
sinamonna erande omataci makasurai cieja
品物は 選ばないから、あんた達に 任かせるよ」 と言えば
na:
ね。

M hai
はい。

H kaeq cja aN-sino na
却て あの連中が ね。

M hai
はい。

H sidoromodoro site na:
しどろもどろ して ね。

M hai
はい。

H mo zeqtai wai kata jaijaran na: jaqqai na⁸²⁾
もう 絶対 悪いのは やりなさらない ね。やはり ね,
wagadoga kaoni kakacjoqde na
自分たちの 顔に かかっているから ね。

M hai
はい

H jokato: jarraqcio hoide na
いいのを やろうかいて ね。

M jaappai o: negi: okjaqsatija hara < H Nnja >
やはり ね、 ねぎる お客さんには ほれ

aN jaqseNto: jaro goq ai mon jaqde na
あのう 駄目なのを やり たく ある もの だから ね。

H zjaqtacqi hoide na mo: sinamonga nakagoto
そうだね。 それで ね、 もう 品物が なく

nareja na: keN hutomo oijaqtado iqdonanka
なれば ね。 こんな 人も おられたよ。 一度なんか

naataja nizin koke itaja hoiga nakagtadeja
ね、 私は 人蔘 買いに 行ったら それが 無ったんだもの

sa: hoide na son obasaNNi obasa:N nizinna
ね。 それで ね その 「おばさんに 「おばさん、 人蔘は

kjuwa nakagtatoka cutana. ziki na sokoatai
今日は 無かったのか」 と言ったら、 すぐ ね そこらあたり

ko: mimae site (oi)jaqtataga..... huresiku
こう 見廻わして おられたんだが、 風呂敷を

83)
ko: akete na hai ozisan no bunna koke niziq-
こう 開けて ね、「ほれ おじさんの 分は ここに 人蔘

ha toq aqde koi mogte iqqjai cute jaqpai
を とって あるから、これを もって 行きなさい」と言って

so ide na huton mae jarea na kakusete itate
それで ね 人の 前 だから ね、 隠して 行って

toqte kurejato:
探って くれなさるよ。

84)
M o wagze ninkiga jokam on zja
おお、 ひどく 人気が よいらしい

H a: aigate coq zjaqcii o soide na makurazagga
ああ、 ありがたい 事 だ よ。 それで ね、 枕崎が

konggora tanosu naqta: ataija
このごろは 楽しく なったよ 私は。

M a n n a n i z i n n u k e j a q t o q m o d a i k o n n u k e j a t o q -
あのね、 人蔵を 買いなさる 時も 大根を 買いなさる 時
mo hora s i n n u a k e q m i t e t o : g a t a q c j o i k a
も ほれ、 芯を あけて 見て とうが 立っているか
t a q c j o r a n k a
立っていないか

H t o : c u w a n a i k a o
とう というのは 何かい。

M s i n a m o n n u j o k a h u n i m i t e k e j a h a n n a :
品物を よい あんばいに 見て 買いなさらなきゃあ。

H t o : c u w a n a
とう というのは？

M t o : g a t a q o q c i h o r a a N a i o : s i n n i h a n a g a
とうが 立って いる ほら あの あれよ。 芯に 花が
s e q t o k a d e q a n d o g a h a r a
咲くのが 出て いるでしょ ほら。

H s i t a n n a o r a s e n t a :
知らないわい、 私は そんなんのは。

M k a b i g a d e k e t e d a i k o n n i k a t o : n a q t o g a a q t a N -
かびが 出来て 大根に 堅く なるのが あります
d e s e n t o m o s i r a b e t e j o k a h u n i m o q t e k i j a n s e
から、 そんなんとも 調べて よい 具合に もって 来なさい

na :
ね。

H e s o n n a : m o a N - s i s e N k o n d o i t a t o k a j u w a n -
⁸⁵⁾ あの連中に そんなに 今度 行った 時は 言わぬ

n a r a o m a j a s o n o t o : n o t a q t a t o : j a i j a n n a
きゃ あなた、「その とうの 立ったのを 下さるな

s o r a c j u t e n a :
そら」と言って ね。

M joka sinamonnō moqte kijahanna sosite jasu
よい 品物を もって 来られなければ、 そして 安く

ui jahanna
売られなれば。

H nān cu:taci na jaqpai aN-si makasureja na
何と 言ったって ね、 やはり あの連中に 任せれば ね、

jaqpai ningēN jaqdeja sa:na warī kocja de-
やはり 人間 だもの そらね。 悪い ことは 出
kiraren taqdeo
来なさらん のだもの。

M zjasito na:
そうです ね。

H hoide na sōN: ma kju kite asita kon ningēN-
それで ね、 そのう 今日 来て 明日は 来ない 人間

zja nakataqde sa:
では ないのだから さ。

M hai
はい。

H ma:ta iqtaqdeja sa na:
また 行くのだ もの ね。

M hai
はい。

H hoide itate aku:hi na sōN kon cug i ita tq
それで、 行って 翌日 ね、 この 次に 行った 時,
obasan omaja konmaentā moqte itaja omaja
「おばさん あんた、 この前のは 持って 行ったら あんた、
agen gwantare: jaijaqteci ieja na obasantā-
あんな 粗末なのを くれなさって」と 言えば ね おばあん達
qmo eq sentoga maziq oq taka kowa mo gobure-
も 「えっ そんなのが まざって いたか。 これは 御無礼
sa: gowasitado sono kai: i kjuwana ma niwa-
さま でしたよ。 その 代りに 今日は ね 2把

baq kai o han na kur uq de na te i ja q do ja q pa i
ばかり あなた、呉れるから ね」と 言われるよ やっぱり

oma ja
あなた。

M e: ha na o mo q te ki ja q tok imo: ki q no ha na mo
ええ、花をもって来られる時も、菊の花も

mo su tzi bana o mo q te ko N zi ci q ta cu bu q no
す枯れ花をもって来ないで、少しは薔薇の

jo na to jo kato: mo q te ki ja ha N na
ようなのを、よいのをもって来られなけりゃあ。

H so i: ga se N wake i ka ntarai mi jai a N-s i g a na
それがそんなわけに行かんのだね。あの連中がね,
cja: N to wao cu ku q c jorai mo N ja q de na:
ちゃんと輪を作つていられるものだからね。

M e:
ええ。

H ba q t ai i ka n to e ja na ra N ta q de o sa
さっぱりだめ。選ぶことができないんだものね。

M ho i de ko nda su ta i bana ja q cu te ma ke s a se
そして今度はす枯れ花だと言つて(値を)負けさせて
ki ja ra N na su ma nta n do:
来られなきゃあいけないんですよ。

H o: ma ke s a s a: ma ke s a s u q ton a: ma ke s a s u q ta q do-
おお、負けさせるのなら、負けさせるのだ
N ka ra N uq to ka huto q ne de uq t ade o i g a mo kew a
けれども、売る時は同じ値で売るのだから、私の儲けは
huto na q ta q do oma ja se N si ja re ja
大きくなるよあなた。そうしなさると。

ho i de na na q c ja N ma: jok a ga at a i g a na dai-
それでね、夏ちゃん、まあいいさ。私がね、だい
tai: mo q te ku q ta so ge N na ma: ci omote at a ja
たい持つて来るのはそんなにはあと思つて、私は

jappa i zi si N no mo q te kuiga na ho ide: jo ka-
やはり 自信を もって 来るよ ね。それで いい

tai ga
のさ。

M aN mai zi si N baq kai mo q cjaq taci
あんまり 自信ばかり おもちになつても、

H ma s o r j a.....
もう それは

M jaq se n to: ura aN ui c uke r a re jaq ta N do:
駄目なのを あのう 売りつけられなさるんですよ。

H ma N to q d oka s e N ko q mo na k a t o m o i e N t a q d o N
まあ うん 時々は そんな ことも ないと 言えないが

n a m a: d o k o N.....
ね。まあ どこの

M ja r e c i
(話を)やれと。

H de jaq to kana.
で、 やるのかな。

M 笑 い

H so i de ma: jaq p a i n a N cu t a c i: n a i g o a N g a m o:
それで まあ やはり 何と 言つたって 何 ですが、 もう
91)
s o r a h i t o z u k i a i c j u: N d e s u k a n e: s e N n a N s e j a
それは 人づき合い と言うんですかね。 そう なりますと

n a m a jaq p a i a N - s i m o: r i o : s i N t e k i s i m o n d e
ね、 やはり あの連中も 良心的に しますから

n a h o N n o k o t e w a q z e: a t a i m o o m a N s a t a q n o
ね、 ほんとに 大変。 私も あなた達が

i: jaq t a o: k i: t e m a t a m u k o N - s i n i m o z e N z e N
言われるのを 聞いて また 何うの連中に (もう 全然

s o r a m o: n a N c j u t a c j a a t a j a s i r o : t o jaq t a q d e
そら もう) 何と言つたって 私は 素人 なんだもの

s a : n a :
そら ね。

M h a i z j a s i t o : n a :
はい。 そうですの ね。

H ho i d e s o N c u m o i d e n a u q k a k a r e j a h o r a m u k o N -
それで その 積りで ね ぶち当たれば, ほれ 向うの
s i m o b a q t a i i k a r e n g a h a :
連中も 全然 動きがとれない よ。

M s o i d e h a k u s a i n a n d a o : k u d a r i m o n o t o a k u d a r i -
それで 白菜なんかね, (下りものと あっ 下り
m o n o k u d a i m o n d o :
もの) 下りものと

H h a i
はい。

M a n o m a k u r a z a q n o z i n o m o n t a n e d a n g a c i g e m o h i k a :
あのう 枕崎の 地のものとは 値段が 違いますか。

H z e N z e N c i g e m o h i n a :
全然 ちがいます ね。

M c i g e m o h i t o :
違いますのか?

H h a k a i k a r a c i g a i m a s u g a h a : i
秤からが 違いますよ。 はい。

M e : j a q p a i z i n o m o n g a t a q k a t o g w a h i k a
ええ、やはり 地のものが 高い のですか。

H t a k a i d e s u n e :
高いですね。

M h a i
はい。

H s o r a m o t a k o g o a n s a
それは もう 高い ですね。

M s o i n o h o g a a t a r a s j u h i t e o i s i k a n d o N n a :
その 方が あたらしくて おいしいです ね。

H hai
はい。

M cukemon na nka suq to ka cito tako go a n s a i
漬物なんかに する ときは 少し 高い ですね。

H a : so i de na : mo a N : cukemon ni si ja q to ka
ああ、それで ね、もう 漬物に なさる ときは
mo k u d a i m o n d e j o k a n s a i
下りもので よろしいですよ。

M hai
はい。

6. 祝儀：孫の誕生をよろこぶ

録音日時 1966年11月20日

録音場所 笠沙町片浦金宮荘
(旅館)

話し手

(略号)	(氏名)	(性別)	(生年)	(職業)	(居住歴)
S	坂上三太郎	男	明治40年生	漁業	0~16才在郷, 21~23熊本市(兵役), 24~27在郷, 28~37下関市, 38~現在 在郷
F	坂上フク	女	昭43年生	農業	0~16才在郷, 17~20鹿児島市, 21~34大阪市, 34~現在 在郷

解説：近所の老女に孫が出来た（他郷で娘が出産）ことをきいて、祝いに来た老人が、自分も早く孫の顔を見たいが、息子が結婚するようすもないで困っている。羨しい限りだと言えば、老女は早く孫の顔をみせに一度帰郷してくれればなあと願う。男いう：待つあいだが楽しみであると。

S ko n c j a g o a s i t a :
今日は。

F (ko) N c i w a :
今日は。

S makote kjuwa joka hijoi goasi
ほんとに 今日は よい 日和 です。

F joka tenki gozando na:
よい 天気 です ね。

S mo: ohanjada: magodonmo Nmareaqtaci
もう あなたのうちは 孫さんも 生まれなさったとか。

F hai okagesade
はい。 お蔭様で。

S sa: joka koq goasita
それは よい こと でした。

Fjorokuj kata goansa kora
⁹⁶⁾ よろこんでいる ところ です。

S otokonko jaqtatokaci :.....
男の子 だったのかい。

F i: ja onagonko.....
いいえ。 女の子。

S onagonkona
女の子ですか？

F hai
はい。

S e: sora mata N: mo onagonko konrorama ona-
ええ。 それは また 女の子 今度なんかは 女
gonkode cjo: do joka tokoi zjaqta:
の子で ちょうど よい ところ だった。

F hai ma: ici hime ni taro: tokaci ijande hara
はい、まあ 一 姫 二 太郎とかと 言われますから、ほら

n'a:
ね。

S jaqto na: sora mo: joka koq jasita:
そうだ ね。 それは もう よい こと でした。

F okagesade gacui joka koq jasita
お蔭様で ほんとに よい こと でした。

S e: hosite minna ojako tome genki aiq jaq...
ええ そして みんな 親子 ともに 元気で あら れて

F ha: i genki aq cumondo:
はい 元気 だ そうですよ。

S a: sora joka coq gowahi na: e: atainandomo
ああ、それは よい こと ですね。 私なんかも

kora mo: magomo hohika goq(ai) ziki jaqdo N-
これは もう 孫も 欲しい ようにある 時機 だけれ

ka:
ども。

F na:
ですね。

S ataigenanda mo nanzja dekemohan na kora
私の家なんか もう 何にも 出来ませんよ よ ほれ。

F ma: son uci joka hitoN oijansodai hora
まあ、 その うちに よい 人が おられるでしょう。

S ma: mo oreba yokataqdonkararan mo:
まあ、 もう いれば 良いんだけれど も。

F oijasito
おられますよ。

S soikara: nai ja na: mo
それから 何 だ ね もう。

F gaqcui hajo: magoN curamo mirogo aqto goa-
ほんとに 早く 孫の 顔も 見たいのです けれ
ndonkararan kora hanare onseba gaqcui
ども 離れて いますと ほんとに。

S zjahi ga atainandomo mo mago magoci mo: omo-
そうですよ。 私なんか もう 孫 孫って もう 思

cjoqdonaN makote: Nmaretai qkageqka iqkageq
っているけど ほんとに。 生れた 1か月 1か月,

Nja iqkageqzia naka ma: mukai cjuqga kitaka
いや 1か月では ない まあ 一誕生が 来たか

k o N k a c i j u : k o d o m o g a a t a i r o k u z u : s u g i t a
来ないかと いう 子供が 私に 60才 過ぎた

n i n g e N n i o z i s a N c j u m o s a i⁹⁹⁾
人間に おじさん と言いますよ。

F s o : d e s u k a¹⁰⁰⁾
そう ですか。

S a g e n t o k i k e j a m o : h a r a g a k i q k i j a q j a r a m o :¹⁰¹⁾
あんなのを 聞けば もう 腹が 立つやら もう

g e N n a k a j a r a m o n a N c j u e b a j o k a k a m o : a t a i g a¹⁰²⁾
恥ずかしいやら もう 何と言えば よいか もう 私が

k o k o r a : m o : h o N n i c j u r a g a m a k k e n a i s i k o b a q -
心は もう ほんに 顔が 真赤に なるほど

k a i a h i g a o
ですわい。

F e : n a : h a i m a t a : j o m e z j o : m i h i k e q j a i j a h a n k a¹⁰³⁾
え、 ね、 早く それ 嫁さんを 見つけて 上げなさらないか

o m a i j a d e m o m a t a¹⁰⁴⁾
お宅もね。

S a q d e n a : s o g e N o m o c j o q t a q d o N k a r a N o h a n n a
なるほど ね。 そう 思っているけれども あなた

h o N n i g a o m a j a : m o t o c i k i g a n a k a j a n a :
本人が あなた 持とうという 気が なければ ね,
o j a g a d o h i k o m o t e m o t e c j u t a r e c i a i m o n a k a -^{105) 106)}
親が どれほど 持て 持て と言ったとて, ない

: s i j a q k e n a m o N : j a i m o s a i j o n o n a k a c j u w a n a :
し, 厄介な もの ですわい。 世の中 というのは ね。

F w a g a m i h i k e o i j a q t a n d o d a i h o r a
自分が 見つけて いられるのでしょうか ほら。

S a : m i h i k e o q t o n a r a m i h i k e o q c i j u t e t e g a n d e N
ああ, 見つけて いるのなら 見つけて いると 言って 手紙でも
k u r u r e b a j o k a t a q r o N m a k o t e t e g a n d e m o o m a j a
呉れれば よいのだが。 まことに 手紙でも あなた,

i k e s i t e¹⁰⁷⁾ no ja N k o k o r o k o s i t a s i c i n a : m u k a -
どうしても。 親の 心 子 知らずて ね。 昔

h i n o - s i N j u w a i g a
の人々が 言われるよ。

F mo : i k u c i n a i j a q t a k e
もう いくつに なられたの。

S mo : j a g a q s a N z u g a c i k o n a r o g o c j a q d o N w a : g o -
もう やがて 30が 近く なるようだが, 我が子

g a t o h i m o j o k a a N b e s i t a n t o : k a z u i m u j u b u
の 年も よい あんばいに 知らんのよ。 数も 指を

i q p o N i q p o N o q t e m i t e m o k a N z e t o r a N s i k o j a i -
一本 一本 折って 見ても 数えきれないほど で

m o s a k o r a .
すよ。

F na : h a j o j o k a h i t o : n a i s i j a r a n n a s u m a N
ね, 早く よい 人を 何 なさらなきゃあ いけない。

S a : g e n k a k o : o m a e t a q m o j o k a a N b e
ああ, どうにか こう あなたたちも よい 具合に,

F h a i
はい。

S u z e k e n n i¹⁰⁹⁾ m i m a e d e k i : c u k e c i o q t e n a :
大世間を 見廻して 気 つけていて ね。

F h a i
はい。

S m o s i k o r a k o N k o w a c i j u : j o n a k o g a o q t o k a :
もし これは この 娘はって 言う ような 娘が いる 時は
ma : a i j a q d o N k a r a N.
あれ だけれども,

F h a i n a :
はい。 ね。

S t a n o N m o N d e n a : k i : c j u k e q c j o q k u r e j a i
頼みますから ね, 気を つけていて おくれ。

F hai kio cuke onga na:
はい。 気を つけて いますよ ね。

S honnokote ojani naqte mireja na: honni naN-
ほんとに 親に なって 見ると ね、 ほんとに 何
tomo iwaremohanga
とも 言えませんよ。

F e:
ええ。

S hai
はい。

F so: na:
そうです ね。

S so ide: nai ja na: do: ¹¹¹⁾ oma ijada kon da saNNiN-
それで 何だ なあ、 あなたのうちは 今度は 3人
mena hutai me
目ですか、 2人目？

F mada haime jasito:
まだ 初め ですよ。

S ha hime qna
初めてですか。

F hai
はい。

S e:
ええ。

F iqdo cure te kite misenkaci jug jaqtandoNkaran
一度 連れて 来て、 見せないかと 言って やるんですけど
na:
ね。

S ha; i
はい。

F jaqpai wagataqqa cugoga waikatandodai
やはり 自分たち 都合が 悪いのでしょうか。

S ha ha:
は はあ。

F modoq te kimohaNnai kora
戻って 来ませんのよ ほれ。

S e:
ええ。

F huN
うん。

S ma: soiz ja ma: kakaeq cja tanosun: ma: na.
まあ、 それでは まあ、 かえって 楽しみ まあね,
mitesimaeba naimokaimo omaja ake tesimaeba
見てしまえば、 何でも あなた、 開けてしまえば、
mo sohikon koq akui madega e naino monmo
それだけの こと。 開けるまでが どんな ものも
tanosun jaqttaqde omaja na:
楽しみ なんだから あなた、 ね。

F denedoma curiq modoq kija naja simohaNjaro
来年あたりは 連れて 戻って 来られは しませんどうか。

S a: sora joka koq ja na:
ああ、 それは よい 事 だ ね。

F hai
はい。

S atainandomo mo: sento: kikeja urajamasusite
私なんかは もう そんな事を 聞けば うらやましくて
mo
もう。

F iqki jasito: sen i jai uci:
すぐ ですよ。 そう 言われる うちに。

S e: iqki cju:toga na: iqki: mata omaja siN
ええ、 すぐ というのが ね。 すぐ また あなた 死ぬ
115) jona kote nareja cjoq sime jag a
ような 事に なれば おしまい だよ。

Fwa i ka h o s e : t o i j a q t a c i

悪い 方へ 取りなさったって.....

S s o i n a r a m o m a : o h a N M o s e h i k e j a q d o N k a r a N

それでは、もうまあ、あなたもお忙しいですが。

F h a i

はい。

S m o : k j u w a m a : k o i d e g o b u r e s a : s i m o h i d e

もう今日はまあこれで失礼しますから。

F a i g a t o m o s a g e m o s u

ありがとうございます.....

S m a : d a i z i : s i t e n a :

まあ、大事にしてね。

F h a i

はい。

S m o : h o n n i j o k a k o q j a s i t a :

ほんとによいことでした。

F

S m a : j o r o s u m i N n a n i

まあ、よろしくみんなに

F h a i

はい。

S i j a q t a m o h i

言って下さい。

F a i g a t o m o s a g e m o s i t a

ありがとうございます。

S (s o i) z j a d o : m o

それではどうも。

7. 地名伝説

録音日時 1966年11月20日

録音場所 笠沙町片浦金宮莊
(旅館)

話し手

(略号)	(氏名)	(性別)	(生年)	(職業)	(居住歴)
S	坂上三太郎	男	明治40年生	漁業	既出
F	坂上フク	女	〃43年生	農業	〃

解説：笠沙町内に祓川橋という橋がある。その祓川というのは昔はいも洗い川と呼ばれていた、その「いも」とは衣裳の意である。昔木花咲耶姫が衣裳を洗っているところに、にぎの尊が天降って来て姫に求婚されたのであったが…。姫の衣裳洗いに因んで衣裳洗い川というべきだが、昔は衣裳を「も」と呼んでいた。そこでいも洗い川が変化して祓川となったと。

(調査者言う、勿論無理な説明、ことに話中に喪服の「も」と「裳」とを混同している)

S a n n a :
あのね。

F h a i
はい。

S a : h o N n o m a N t a k e s a : o
ああ、その 野間岳様よ ね。

F h a i
はい。

S n o m a N d a k e s a : n i j a n a a : N i c u h a s i r a c u t e s o N
野間岳様には ね、あのう 五つ柱 と言って
g o n i n m a c u r a r e c j o t a q c u r o N n a :
5人 祀られて居られるんだと 言うが ね。

F e :
ええ。

S a t a j a s o i b a s o N g o n i N n o u c i : m a : g o n i N s a : N
私は それを 5人の うちに まあ、 5人様の

uci minna son: gonintome namaewa si q c jora-
うち みんな その 5人ともに 名前は 知っていない

d onkaraN na:
んだけれ どね。

F hai
はい。

S ima seN konohanasakiahimeci ju: i ja i hito¹¹⁶⁾
今 その 木花咲耶姫と 言う 言われる 人

na:
ね。

F hai
はい。

S seN k ami onagon kaNs a: o¹¹⁷⁾
その 神は 女の 神様 でね。

F e:
ええ。

S soN onagon kaNs a:ga soN ma: soN kaNs a:kara¹¹⁸⁾
(その 女の 神様が その 神様から)

imaN ko:ran aN: meganebahi o
今の 小浦の あの めがね橋 よね。

F hai
はい。

S ma imaN haraikawabasi cjuwa(rai) hara hara
まあ 今の 砥川橋 と言われる ほら ほら

na aN kawa ga no zu:qto soN ueN hog a zjo:rju:-¹¹⁹⁾
ね。あの 川の ずっと その 上の 方が 上流
no ho:ga na:
の 方が ね。

F hai
はい。

S e: mukasja: soN imoaraigawa cju kawa jaqta-
昔は いも洗い川 という 川 だった

taq c jude o sora na:
と言うから ほら ね。

F e:
ええ。

S hosite son imo c juto son wagaroga ku: na:
そして その いも と言うと 自分らが 食う ね

F hai
はい。

S karaime zja nosite:
薩摩芋では なくて,

F hai
はい。

S isjo: sora iso na:
衣裳 ほれ 衣裳 ね,

F e:
ええ。

S isoo ba son konohan asaku jahimeno aru oijag-
衣裳を その 木の花咲耶姫が 洗って おられ

tataq c jude o son an kawano zu: qto ue n ho-
たと いうから ね その 川の ずっと 上の 方

de zjo: rjuN hode na:
で、 上流の 方で ね,

F hai hai
はい。 はい。

S hosita ja soke son ma niniginomikoto ga e:
そしたら そこに ににぎの尊は

ama kudari site ki ja qte hijo qkoi kite na:
天降り して 来られて ひょっこり 来て ね,

F hai
はい。

S hosite a: oma ja oiga ome: na qte kure N caci
そして 「あなたは 私の 妻に なって くれないか」て

F hai
はい。

S i ja q t a q c i
¹²¹⁾
言われたとさ。

F hu
うん。

S (h e) s i t a t o k o i g a m a : o t o q c j a n n i : k i t e m i r a -
そうした ところが お父さんに きいて 見なけ
N n a a t a i g a h i t o i z j a h e N z i j a d e k e N c i t e
れば、 私が 一人では 返事は 出来ない と言って,

F hai
はい。

S h o s i t e s o N m a : o t o : s a N n i k i q k j a q t a t o k o i g a
そして お父さんに きかれた ところが
m a . j o k a r o c i j u j o n a h u d e n a :
まあ よからうと いう ような 次第で ね

F hai
はい。

S h o s i t e m a : a : h u t a i n o - s i g a m a h u : h u n i n a q t e
そして まあ 二人の人々が 夫婦に なって
j a q p a i s o k o N n o m a n d a k e s a : n i m a c j u r a r e j a q t a t a q
やはり その 野間岳様に 祀られなさった
c j u d e o s o r a n a :
というんだよ ほら ね。

F e:
ええ。

S h o s i t e s o N t o q n o m a : n a i g a : s o i k a r a s o N m a
(そして その 時の まあ 何が それから その まあ)
¹²²⁾
i s o o b a a r u o i j a q t a r e s o N a t a i m a e w a g e N k o t o -
衣裳を 洗って おられたら, 当り前に 自分たちの 言
b a i i e j a i s o a r u g a w a j a q t a q d o N k a r a N n a :
葉で 言えば 衣裳洗い川 なんだけれども ね。

F hai hai
はい はい。

S mukahino-sa son 123) ai isononija moc i jugoijaq-
昔の人々は 衣裳には もと 言って
tataqdeo sora na:
おられたんだ もの ね。

F e: hai hai
ええ、はい はい。

S imoci na
いもと ね。

F ha~
はい。

S hoide son 125) mohukuci jaqqai imademo hara ko:
それで も服って やはり 今でも ほら こう
gozemuken toq jaqtoka nai jaqtokaci ju jona
結婚式の 時 だとか、 何 だとかと いう ような
agen ba:inija ko mohukuci ma josoN-s ja:
あんな 場合には も服と よその人々は
i jaqto hara na:
言われるよ ね。

F hai ijara i na:
はい。 言われる よね。

S so:N tame a: ma mo 127) jaqqai ma: imademo jaq-
その ため やはり まあ、 今でも やは
pa i cutawaqte kita kotoba jaqc i omoga na:
り 伝わって 来た 言葉 だと 思うだが ね。

F ha:i
はい。

S e: soikara son a imoaraigawaga omaja: ano
それから 荻洗川が あなた、 あのう
imomo oq to rete: araimo a 128) araiga 129) kondo hara-
いもも 落ちて、 洗いも 洗いが 今度 袪

i n i n a q t e
いに なって,

F e:
ええ。

S h o s i t e h a r a i k a : z i n a q t e n a :
そして 祐い川と なって ね。¹³⁰⁾

F h a i
はい。

S h o s i t e a r e h a r a i k a w a b a s i c i i m a z j a j u t a q c j u -
そして あれ 祐川橋と 今では 言うんだという
r o N n a :
けれども ね。

F e:
ええ。

S s o i d e o m a j a : a n o : i m a r e a s o r a h a r a i k a : b a s i
それで あなた, あのう 今では 祐川橋
c j u : r o N k a r a n s o : j u : j o : n a m a : i w a r e n o a i
と言うけれども。 そう 言う ような まあ, いわれの ある
j a q p a i k a : j a q t a q c j u d o o m a j a :
川 だった そうだよ あなた。

F e: s o s i t e n a
ええ、 そして(どう)ですか。

S h a : i s o i d e n a : j a q p a i a t a i n a n d o m o n a : i m o
はい。 それで ね やはり 私なんかも 何にも
k a N g e N z i o q d o N k a r a j a q p a i k o g e N s i t e m u k a -
考へないで いるけれども, やはり こんなに して, 昔
h i n o k o c j u b a n a i k a i t a g u i j o s e t e k i t a i m i t a i
の ことを 何かと 手縫り寄せて, 来たり 見たり,
z u : q t o s i t e m i r e b a j a q p a i n a :
ずっと して 見れば, やはり ね。

F h a : i
はい。

S a N mezurahika mo Nmo aq t a i
あのう 珍しい ものも あったり,

F z ja q t o n a :
そうです ね。

S h o n n o k o t e n a : c u t e b i q k u i s u i j o n a k o q m o
「まことに ね」 と言って、びっくりする ような 事も

a q t o n a :
あるよ ね。

F (z ja) N s a i n a :
そうですわ ね。

S j a q p a i w a g e N a t a i a q t e : a s a b a N m i c j o r e b a
やはり 自分の家のあたりに あるのに 朝晩 見ていると,
n a n t o m o k a n g e N d o N
何とも 考えないけれども,

F h a : i
はい。

S j a q p a i k o : m a : ¹³¹⁾ r e k i s i N j o n a m o N n u s i r a b e t e :
やはり 歴史の ような ものを 調べて
m i : j a i - s j a n a :
見られる人々は ね。

F h a i
はい。

S j a q p a i o h o : k o r a : n a : c i j u t e j a q p a i a : c i
やはり 「ほう、これは、ね」 と言って、やはり あと
o m o k o q m o a i w a k e j a q t o h o r a n a :
思う ことも ある わけ だよ ほら ね。
132)

F n a :
そうですね。

8. 網主の奥さんと漁夫

録音日時 1966年11月20日

録音場所 笠沙町片浦金宮荘
(旅館)

話し手

(略号)	(氏名)	(性別)	(生年)	(職業)	(居)	住	歴
M	前田ナツエ	女	明治42年生	商業	既	出	
S	坂上三太郎	男	〃40年生	漁業		〃	

解説：片浦近海では雑魚がとれる。雑魚は鰯釣りに最高の餌であるところから、県内はもちろん県外からも餌買いに網主のところに泊りがけでやってくる。一日漁が少なかった漁夫の報告をきいて奥さんが苦情やら激励やらのべる。次の闇夜には漁があろうし、海も水温が高まろう等々のべがんばることを誓うのが漁夫である。生簀にすべき籠は新しく漁を予想して多く到着するのに、漁がおっつかないのは残念だと奥さんが言えば、漁夫は籠に耻かかないようにうんとがんばりますなどいう。〔この演出は女（話手）が網主の娘さんとして育って来たので、昔の我家のあり様を思い出してのことである。今は往時のように雑魚がとれなくなって餌買い人が集まる賑やかさは見られない。〕

S o q s a N i m a j a q t a :
奥さん、今 だった。

M j a q t o j a q t a n a :
御苦勞 だったです ね。

S a i (g a) t o g o w a s i
ありがとう。

M d a r e j a q t a d o g a o :
お疲れになったろう ね。

S h a : m o
はい、もう。

M z a k o w a g e n n a k o q j a s i t a k a o
雑魚は どうな こと でしたか。

S z a k o g a n a : j o k a z a k o j a q d o n k a r a n u h i k a m o n
雑魚が ね よい 雜魚 だけれども 薄い もの

133)

j a q d e
だから,

M e :
ええ。

S ja q t o ro q k a g o ro q p o n
¹³⁴⁾
やっと 箱 6本,

M e :
¹³⁵⁾
ええ。

S a q t a g a m i j a i
¹³⁶⁾
あったよ 御覧。

M s o r a m o s e N k o q c u w a n a k a q t a n a :
それはもうそんな事って無かったわね。

S k o n n j a d o m a m a t a n a q m o j o k a d e n a :
今夜なんか また 風も よいから ね,

M h a i
はい。

S k o n n j a : k o n n j a : t a n o s u n n i s i o r a n n a r a s u m a N -
今夜は 今夜は 楽しみに していなければ いけな
g a c i m i N n a d e k o w a h u n e N - s i m o j u k a t a j a h i g a
いと 皆で こら 船の連中も 言って いる ところです。

M e : c i q t o k i b a q t e t o i j a r a n n a n a :
ええ、少し 精出して 獲らなければ ね

S h a : i z j a q t o n a :
はい そうです ね。

M e d o k e N - s i g a d o : s i k o d e N k i q o i j a q d e n a :
餌貰いの連中が ずいぶん 来て いられるので ね。

S e : s o r a m o
ええ それは もう。

M m o n i k e n a g a q c u i i k i r a n s i k o
もう 二階には 実際は 入りきれないほど。

S

M zju: goroq n i N kara ki q o i jaq de na:
15,6人も 来て おられるんで ね。

S e: e
ええ、え。

M so ide a no ci q t o k i bai jara N na suman
それで あのう 少し 頑張らなさらなきゃ いけない。

S hai sora mo: ga q cui huto i jaq te huto i jar a N
はい、それはもう、ほんとに 一人に やって、一人に やらんと
137) zju wakena i kansi o han taq mo komai jai kote
いう わけには 行かないし、あなた達も 困られる ことです
na:
ね。

M ha: i ja n do:
はい、 そうですよ。

S mo: ge N ka ja q p a i hi q b iku sui go q ate na:
もう 何だか やはり ひいきを する ように あって ね。
a N h u t o b a q k a i jaq te c ju: te na:
あの 人にばかり やって と言って ね。

M hai
はい。

S ho ide mo: at a i n a N domo i q s j oke N me i na q o qta-
それで もう、 私なども 一所懸命に なって いるの
138) h i d e k o N n j a d o m a j o k a N s o d a i
ですから 今夜こそ よろしいでしょう。

M mo ke N s i te ga q cui ed oke N - s i m o o h i k a k e t e
もう こう して ほんとに 餌壳の連中も 押しかけて
k i j a r e b a na:
来なされば ね。

S a: i
はい。

M do ke ja i za q m o¹³⁹⁾ n o s i te: o to q c j a N mo s i N p a i
どこに やり先も 無くて お父さんも 心配

s i j a q d e n a :
なさるから ね。

S z ja N do n a :
そうですよ ね。

M c i q t o k i b a q t e
少し 精出して;

S h a i
はい。

M h i : b a i d e N s i t e t o i j a r a N d o k a i n a
¹⁴⁰⁾ 昼の操業でも して (魚を)とられないだろうか ね。

S h a i z j a q t o : h o N n o k o t e n a : m a c i q t o n a q g a
はい、 そうよ。 ほんとに ね、 も少し 届が
j o k a j a h i : b a i s u r e b a m a d a n i h o N d e N s a N b o N d e N
よければ、 昼の操業 すれば まだ 2本でも 3本でも

n a : t o r e N c j u k o q m o n a k a t a q d o N k a r a N a q c j a :
ね とれないと いう ことも 無いのだけれども, あちらは

g e N j a q t a d o k a i n a k o N k a i g a t a N h e N n a t o r e N t a -
¹⁴¹⁾ どんな だったろうか ね この 海潟のあたりは (魚は)と

N d o j o n a :
がないでしょうよね。

M k a i g a t a g a s o i d e t o r e N c u t e k o q c i s e : n e q k a r a
海潟が それで, とれない といって, こっちへ みんな
o h i k a k e t e k i j a t a t a q d e n a :
押しかけて 来られたんで ね。

S e : h a : i
ええ, はい。

M d o k o j a q t a k a j u : b e t a q k i j a q t a t o k o j a
どう だったか, 昨夜(火を) 燐かれた 処は。

S j u : b e a a q c i u r e b e N k a t a ¹⁴²⁾ j a s i t a t o
昨夜は あっち, 浦辺の潟 でしたよ。

M e :
ええ。

S ahikomo na: jaqrai matan jaanni nareja ahi-
あそこも ね やはり 又の 間に なれば, あそ
kon zakowa katamaqtadon na:
この 雜魚は かたまるのだが ね。¹⁴³⁾

M hai
はい。

S koNDON jami zuja ikenka ko: zakoga bara qci
今度の 間までは なんだか こう 雜魚が ぱらっと
siq ojona huni
じて、いる ような 風に,¹⁴⁴⁾

M e: seN zjahika
ええ、そう ですか。

S ha: i sogeN jona huni seNzjuronnu juoraqttagao
はい。 そんな ような 具合に 船頭さんが 言っておられたよ。

M e: sosite zakowa ciqta tomahikao
ええ、そして 雜魚は 少しは のこりますか。¹⁴⁵⁾

S a: ma: zakon kataga jokade na:
はあ、まあ 雜魚の 型が よいから ね。¹⁴⁶⁾

M hai
はい。

S ma: jaqpai haqqowa mo: tomaroci omocjoqdon
まあ、やはり 8合は もう 残ろうと 思っているんだが
na:
ね。¹⁴⁷⁾

M waqze: kaqzjobunega na:
すごく 鰯船が ね。

S ha:
はあ。

M joka zaq an o i:joga mie oqci ju:te
よい 雜魚、 あのう 魚が 見えて、いると 言って

S e: e
ええ、え。

MkeN site o hikakete kijareba mo zakowa
こう して (餌買い人が)押しかけて 来なされば、もう 雜魚は

toreNSi
獲れないし、

S ha:i
はい。

M kiga kizja gowahan na kora
気が 気では ありません よ こら。

S zjaiga na: ataihandomo ima jagdon kora na:
そうだよ ね。 私なんかも 今 だが こら ね、

148)
uNto kibaqte ite ciqto iman uci toiku to i-
うんと 頑張って 置いて 少し 今 うちに 獲

kunde ikan na:
り込んで 置かなければ ね。

M hai omo goto ikan mon jaNSa kora na
はい、 思う 様に いかない もの です こら ね。

S ha:i
はあい。

M zako ga doqsa i aq toka hunega zug a nakasi
雑魚が どっさり ある 時は 船が 游が ないし、

S honokote na: erokedonno oijaran toka
ほんとに ね。 餌買い人が おられない 時は、

M ha:i
はあい。

S dosikoden zakomo torete seN site mata toreN
どれだけでも 雑魚も 獲れて、 そう して また 獲れない
toqno kuseni seqkakete kite na:
時の くせに (餌買い人が)つめかけて 来て、 ね。

M joka neno suq tok i toreNzi na:
よい 値が する 時 獲れないで ね。

S ha:i
はい。

M ja q p a i o m o g o t o i q m o h a N d e k o r a
やはり 思う ように 行きませんので。

S z j a h i g a h o N n i
そうです、ほんとに。

M c i q t o k i b a i j a r a N n a s u m a N
少し 精出されなければ いけない。

S h a i m a k o n d o N n a q d o m a m a t a n a 149) 150)
はい、まあ 今度の 風なんかは また ね 時化に
n a i k a m o s i r e N d o N k a r a N m a t e g e n a : s i k e z u j a
なるかも 知れないけれど、まあ たいていの 時化までは
s e N z j u r o N m o m a d a w a q k a r e k i b a r a q d o c i o m o -
船頭さんも まだ 若いから 頑張られると 思
c j o h i g a .
っていますが。

M h a : i k i b a i j a N s e m a :
はい、頑張りなさい まあ。

S w a g a k o q j a q d e m i n n a n a : t o q t e N s j o : b a i 151)
自分の こと だから みんな 獲っての 商売
j a r e j a o m a j a : n e c j o q t a c i i q s e N g a c i m o n a r a N -
だから あんた。 寢ていたって 一銭ほどにも ならない
s i o w a g a e :
し ね、自分の家に。

M n a i k a t a r e k u c j a : m a z i : m o N g a s i q o h i k a o
何か たれくち雑魚は まざりものが して ますか。

S i j a m a d a i m a N t o k o j a m o : n a N n j a h o i k u s a m o 152)
いや、まだ 今の ところは なんにも それこそ もう
m i g o q k a z a k o n a :
綺麗な 雜魚 よ。

M s o r a j o k a g a n a :
それは よいわ ね。

S h a : i
はい。

M s o g e N j o k a k a t a N z a k a j o k a z a k o o b a t o i j a r e -
そんな よい 型の 雜魚 よい 雜魚をば 獲られ
ba na:
ば ね。

S h a : i a g e N z a k o n a r a
はい、 あんな 雜魚ならば、

M w a q z e : j o k a z u g a s u q t a q d o N n a :
すごく よい 漁が するんだだが ね。

S n e m o j e k a t a q d o N n a : a g e N t o n a r a m o . k o N d o N
値も いいんだけれど ね、 あんなのなら もう 今度の
z a k o n a N d a n a s a . m o : z e N n o k o c j a j u w a N c i
雑魚なんか ね、 それは、 もう 錢の ことは 言わないで、
n e n o k o c j a j u w a N c i m i N n a e d o k e N - s i g a j u o
値の 事は 言わないで 皆 餌買いの連中が 言う
g o q a i g a
よ だよ。

M n e w a k i r o w a N c u t e n a :
値は 嫌らわな と言って ね。

S h a : i
はい。

M g a q c u i w a r e m o s a k i n e q k a r a w a k e q k u r e c u t e
ほんとに 我も 先に 「全部 分けて くれ」 と言って、

S e z j a N s o :
え、 そうでしょう。

M i j a r e b a m o g a q c u i n i k e o q t e z a k o k e N - s i m o
言いなされば、 もう ほんとに 2階に いて 雜魚買いの連中も
k i g a k i z j a n a k a j o n a h u j a q d o :
気が 気では ない ような 様子 だよ。

S h a : i s o i d o N k a r a N s o r a h o k a N - s j a o m a j a i p p o -
はい。 そうだけれども 外の連中は あなた (籠) 1

N k a n i h o N k a t o r a q d o a t a i n a N d o g a s e k a h i q c j a -
本か 2本か 獲られるよ。 私なんどのさえ 7 8

154)
q p o n c i t o r e j a m o . w a z e : k a n a
本と 獲れたので もう すごい ね。

M h a : i
はい。

S j o k a q t a t o u r e h i k a q t a r o r a i
よかったです。 嬉しかったろうよ。

M e : s o r a m o j o k a q t a n a :
ええ、それはもう良かった ね,

S s e N z j u r o N m o j u b e w a n a :
船頭さんも 昨晩は ね。

M m a k i b a i j a i d a r e N g o t o n a :
まあ、頑張んなさい。 疲れない ように ね。

S j a q p a i m a d a c i q t a c u m e t a k a r o (d o) N k a N c u m e -
やはり まだ 少しは(海は)つめたからうけれども, 冷

t a k a k o q n a N d o N j u q o q t a c i k a n g e q o q t a c i
たい ことなど 言って いたって, 考えて いたって,

s u m a N k o t e w a i n a :
いけない ことよ お前 ね。

M u N n o n a k a N k a g e N m o w a i k a q d o d e n a
海の 中の 加減も 悪いだろうよ ね。

S h a : i

M z a k o m o t o r e n i q k a t a n s o d o N
雑魚も 獲れ にくいのでしょうか。

S j a s i t o k o i g a m a t a u N g a n j u q m o r e b a m a t a n a :
そうですよ。これがね, 海が 温まれば また ね,

ano z a k o m o g o q g a j u n a i s i d e : m o j a q p a i
あのう 雜魚も 機嫌が よく なるし, そこで やっぱり

u N g a n j u q m o r a N n a n i N g e N m a d e j a q p a i n j u q m o i
海が 温まらなければ, 人間まで やっぱり あたたまり

m o h a N n a k o r a
ません ね。

M kagomo¹⁵⁸⁾ do-hikoden dekeq kitade na.
籠も どれだけでも 出来て 来たから ね。

S ha: ha:
はあ、 はあ。

M zakowa dohikoden toijaqte yokataqdon na:
雑魚は どれだけでも 獲られて いいんだけれども ね。

S ha: zjaqto na:
はあ、 そうです ね。

M hai
はい。

S mo: mo na kagomo jaqpai haciziqponbaqkai
もう 篠も やはり 80本ばかりに

na i kocja nasita na:
なる ことは なりました ね。

M hai mo: hora mata nikatoga atokara kuqtaqde
はい。 ほれ また 新しいのが あとから 来るんだから

na:
ね。

S e: e
ええ。

M kinumo naziqponci kiq onde
昨日も 何十本と 来て いますから。

S a:
はあ。

M kjuwa mata mukansimase. son kagomo hakoqbja-
今日は また 向江島へ その 篠も 運ばなけ
raNna sumandoN
れば いけないだが。

S e: hai hai sora mo:..... kagoni hazju kakaN
ええ、 はい はい。 それは もう 篠に 耻を かかない
goto iqpe kibaranNa sunmohanga
ように 懸命に 精出さなきゃあ いけないです。

M ma jaqto jaNsodon na.
まあ 御苦労 でしょが ね。

S a i g a t o g o w a . s i
ありがとうございます。

M k i b a i j a N s e
頑張なさい。

S ha:i ho inara
はい。それじゃ。

M sajonara dare jaNna
さようなら、疲れなさるな。

S ha:i ma
はい。まあ。

注

- 1) [p.6] 標準語的。
- 2) [p.6] 坂面という地区名。
- 3) [p.6] 直訳では「あなたは」である。念を押す意があり、「ね」と意訳してよいところ。
以下頻出する。
- 4) [p.6] oqtaja(いたら)が正しいと思う。
- 5) [p.7] 軍隊用語。
- 6) [p.7] 「貰い上げて」の義。
- 7) [p.7] waigenosiwaの縮まった形。siは「衆」の訛り。
- 8) [p.8] 形容詞の基本形を助詞「も」で結ぶと、強意を示す。
- 9) [p.8] 言いまちがい。
- 10) [p.9] なお自分の言葉を続けようとしたが、相手の言葉でさえぎられ、文意がととのわない。
- 11) [p.9] 標準語。
- 12) [p.10] so:が先行すべきだが、zjaqta——を自立語として使う。
- 13) [p.11] rjo:>dgu:>du

- 14) [p.11] jo kaqtado の訛り。
- 15) [p.11] 言いまちがい。
- 16) [p.12] 言いさし。
- 17) [p.12] 言いまちがい。
- 18) [p.13] 意味なし。
- 19) [p.13] 「燃えている」の意。
- 20) [p.14] 部落名。
- 21) [p.15] 標準語の「はい」に当たる。
- 22) [p.15] あとに「しっかりしなさい」と言おうとした。
- 23) [p.15] 唐突な感じだ。ju jarea (言いなさると)のまちがいか。
- 24) [p.16] 区長たる山中氏の愛称。
- 25) [p.17] 質(たち)の義。
- 26) [p.18] 応答詞の下に mata が来たばあい。
- 27) [p.18] se zunikara > se zuikara > sezikara > sesikara > sek kara
- 28) [p.19] hamecukuq (精出す)。
- 29) [p.20] 「働いて」が原義。
- 30) [p.20] 「言って聞かせ申さんなら」の義。
- 31) [p.21] 言いさし。
- 32) [p.23] mo i は「あたり・辺」の意。
- 33) [p.23] moroke の濁音化。
- 34) [p.23] 「呉れやり賜わり申さんか」の義。
- 35) [p.25] 「であり居り申したよ」の義で、過去の習慣を表わす。
- 36) [p.26] これから前部と前の男性の話の後部とが重なる。
- 37) [p.26] 標準語。
- 38) [p.27] musubi (約束・固め)，musubu は目的格。
- 39) [p.27] (iddzuimo)
- 40) [p.27] magoija—, maoija— のどれかであるべきだが、あやまって—goi～と—oi～とが重複。
- 41) [p.27] juino:kiN の言いまちがい。
- 42) [p.27] 標準語。
- 43) [p.28] kijaqtaga (来られたよ) でなければ変だ。
- 44) [p.29] 言いさし。
- 45) [p.29] 「のしやり申すまい」の義。「のす」は「堪える」意。
- 46) [p.30] obaqsaN のようにきこえるが。

- 47) [p.30] 「近しくなって」の意。
- 48) [p.31] 言いさし。
- 49) [p.33] imadoNnota : とありたい。
- 50) [p.33] rjo:ri>dzu;ri>dzui>dzui (料理)。前に標準語形が出たので、方音に直して発音したところ。
- 51) [p.34] 意味なし。
- 52) [p.34] 「出かける」意の敬謙語。「罷る」に「申す」のついた形。
- 53) [p.34] —taはやや濁る。
- 54) [p.34] uqは強意を示す接辞。
- 55) [p.34] このようなばあいは単に念を押す。
- 56) [p.35] 「落ち着きやり申しつらう」の義。
- 57) [p.35] 「申し上げ申す」の義。
- 58) [p.36] 「禍」にカ語尾をつけた形。おそろしい。すごいなどの意から、副詞として大変、実にの意にも用いるが、ここでは感動詞的。
- 59) [p.36] 繩で荒目にあんだ袋で、野菜・芋類を入れる。
- 60) [p.37] 言いさし。
- 61) [p.37] 地名。
- 62) [p.37] moiは「あたり・辺」の意。
- 63) [p.40] soidoNkarANがそうきこえるのだろう。
- 64) [p.40] kozuq (杵でつき砕く)
- 65) [p.41] 「五体」から来ている。
- 66) [p.42] 八百屋の仕入れ先である。
- 67) [p.43] 片浦に隣接する部落名。
- 68) [p.44] 標準語形。
- 69) [p.44] 「うろうろしておられない」という言葉を省略している。
- 70) [p.45] ここでは「売るとしたら」の意。
- 71) [p.46] 「言うて聞かするで」の訛り。
- 72) [p.47] 「大変よく売れる」の意。
- 73) [p.48] eqkjaNsebaが薩摩方言としては普通。
- 74) [p.48] 「一生」から来た語。
- 75) [p.48] 枕崎の卸問屋の名。
- 76) [p.48] 「言うて聞かせやった」の訛り。
- 77) [p.49] anotowa>aNTa
- 78) [p.50] 言いまちがい。

- 79) [p.51] 言いまちがい。
- 80) [p.51] 敬意を含む主格助詞。
- 81) [p.51] 敬意を含む主格助詞。
- 82) [p.51] 「下さらない」の意味でいう。
- 83) [p.52] *niziNba*とありたい。
- 84) [p.52] *moN zja*はたしかな根拠があつての推定表現。
- 85) [p.53] 意味なし。
- 86) [p.55] 「御覧なさい」が原義。
- 87) [p.55] 言いまちがい。
- 88) [p.55] 「高くない」という心持。
- 89) [p.56] 言いまちがいか。
- 90) [p.56] 対話をまだ続行するのかと言ったところ。
- 91) [p.56] 標準語。
- 92) [p.56] あとに「伝えよう」の意が続くべきところ。
- 93) [p.57] 「打ちかかれば」の義。
- 94) [p.57] —*do*: は—*to*の濁音化。前に標準語形が出たので、意識的に方言の訛形に言い直した。「下りもの」は鹿児島方面からくだって来た品をいう。
- 95) [p.57] 標準語。
- 96) [p.59] 男女対話が重なる。
- 97) [p.60] *a i jaq* (あり なさる) がスムースに出ないで、とぎれた形になったもの。なお「元気ニアル」という形をよろこぶ。*geNki*の中に助詞「ニ」はとけ込んでいる。
- 98) [p.60] 古語「むかはり月」の訛り。
- 99) [p.61] 「おじいさんと言われたい」が言外の意味。
- 100) [p.61] 標準語。
- 101) [p.61] 「きり焼くやら」の義。最初の *kiq* は接頭辞。
- 102) [p.61] 「芸もない」からの音韻変化・意味変化。
- 103) 104) [p.61] このようなばあいの「又」は単に念を押す意。
- 105) [p.61] *c jutadeci* の訛り。「と言ったからとて」の意。
- 106) [p.61] お金のこと。
- 107) [p.62] どうしても「手紙を呉れない」の意。
- 108) [p.62] *kazumo* とありたい。
- 109) [p.62] *uzekeNno* 又は *uzekeNno* とありたい。
- 110) [p.62] 「迷惑だが」ぐらいの心持。
- 111) [p.63] 言いまちがい。

- 112) [p.64] kaは言いさし。
- 113) [p.64] 「来は成りはし申さんやらう」の義。
- 114) [p.64] 「孫ができるのがすぐだ」の意。
- 115) [p.64] c joq は失敗しときの叫び。sima i (しまう) の名詞形 sime と一緒に、一語のように使う。
- 116) [p.67] ju : を尊敬体に言い直した。
- 117) [p.67] kamiwaとありたい。
- 118) [p.67] () は下の文意と結びつかない。話手は soN とか soN ma : とか ja qpa i とかをしきりに挿入するので、訳をつけない方がよいことが多い。
- 119) [p.67] gaは言いまちがい。
- 120) [p.68] いくぶん [θa] にきこえる。
- 121) [p.69] 弱い促音。
- 122) [p.69] 言いよどみ。無意味なことばが続く。
- 123) [p.70] 意味なし。
- 124) [p.70] —no— は言いまちがい。
- 125) [p.70] 狹服を連想したらしい。
- 126) [p.70] 意味なし。
- 127) [p.70] 意味なし。
- 128) [p.70] 言いさし。
- 129) [p.70] —ga は前の—mo の言い直し。
- 130) [p.71] —c が濁ったもの。
- 131) [p.72] 意味なし。
- 132) [p.72] 「感歎する」の意。
- 133) [p.73] 魚群が密でない。
- 134) [p.74] 言いさし。
- 135) [p.74] これは次の話と重なる。
- 136) [p.74] 「ね」と意訳してよい。
- 137) [p.75] c ju の濁音化。
- 138) [p.75] —so— がいくぶん濁る。
- 139) [p.75] 「泊める場所」の意。
- 140) [p.76] ba i は網を張ること。
- 141) [p.76] 大隅半島の港名。
- 142) [p.76] 片浦から近距離の大浦潟のこと。
- 143) [p.77] 魚群する。

- 144) [p.77] 散在している様。
- 145) [p.77] 生簀の中に入れた雑魚は半分以上も死ぬので、それを気遣っての問い合わせである。
- 146) [p.77] 雜魚が鰯の餌に適した大きさをいう。
- 147) [p.77] 「生簀籠の8分目」の意。
- 148) [p.78] 言いさし。
- 149) [p.79] 「獲れるかも知れない」ということばが続くところ。
- 150) [p.79] 言いまちがい。
- 151) [p.79] 渔があつてこそ商売は成り立つということ。
- 152) [p.79] 他の魚がまざること。鰯の小さい「たれくち」雑魚が鰯の餌に最もよいが、他の雑魚がまざると不適当なので、心配しての問い合わせ。
- 153) [p.79] nanz ja が naNnja にきこえる。
- 154) [p.81] ここでは仮定の意味でなく既然の意味。
- 155) 156) [p.81] は対話重なる。
- 157) [p.81] goq は「御機嫌」の嫌を略した形か。
- 158) [p.82] 生簀のための籠。

非 壳 品

1968年3月

国立国語研究所 話ことば研究室 発行

東京都北区稲付西山町